

第3部

共同化の取組の点検

(三大学教養教育運営協議会)

(1)三大学教養教育運営協議会
会議開催概要
(平成26年10月14日)

機構においては、行政機関、外部の学識経験者、文化人などのステークホルダーを構成員とする「三大学教養教育運営協議会」を平成 24 年 10 月 1 日に設置し、毎年、年次計画や事業実績を報告し、評価、助言を受けてきている。

平成 26 年度は、同年 4 月から教養教育共同化がスタートし、前後期の履修登録者数など共同化の取組状況が一定分かる時期であるとともに、文部科学省から同年 3 月に「大学間連携共同教育推進事業」の中間評価を秋以降に実施する予定であるとの通知があったことを踏まえ、10 月 14 日に会議を開催した。

また、会議開催に当たって、教養教育に高度な識見を有する専門委員 3 名を臨時的に委嘱し、事前に評価意見書（次項に掲載）をとりまとめてもらい、それらも含めて、委員、専門委員に議論いただいた。いただいた意見の概要は、次のとおりである。

[委員]

- ・ 三大学が共同化で教養課程をつくられたことは、もっと評価している素晴らしいことだと思う。他大学でもいろいろと取り組もうとしているが、課題がみられる。
- ・ この京都の小規模の三大学が集まって、きっちり教養教育をしようというシステムは、世界に誇ってもよく、日本の大学の中では新しいスタートだと思うし、素晴らしいものに仕上げたい。中間報告で出されるときは、胸をはって評価していいと思う。
- ・ 前期受講者数の実績をみると、定員の 7 割ぐらいになっているが、10% に行っていないすごく低いのがある。そういったものは、具体的にどうやってその評価をしながらやっていくのか。また、大学の交流が相当低い科目があるが、どうやって交流を深めて三大学の教養教育共同化を進めていくのか疑問に思った。
- ・ 教養教育共同化施設の隣に、国際京都学センターが入居し、図書館機能もある「京都府立新総合資料館」を建築中であるが、コンサートホールや植物園もあり、総合的な交流の場というのが北山文化環境ゾーンの理念であり、そういうものを科目の中でも具体化し、展開していくのが非常に大事と思うので、検討をお願いしたい。
- ・ リベラルアーツ・ゼミナールについて、医農工連携とかいろいろ言われており、共通基盤を作る意味で非常に大事なものを議論する場と思うが、これからどういう科目でセッティングし、深めていくのか是非考えてほしい。
- ・ この施設がオープンしてから決定的にこれまでと違うことがある。専門が違い、異なる個性の人達が集まってコミュニケーションしながら向き合っていくということは、バラバラのキャンパスで教養教育を共通にやるのと全く異なり、この魅力をどのように最大限発揮していくかが最大の課題であると思う。
- ・ 北山エリアのメリット、4 つの施設などを最大限生かして、ゼミナールや重要科目を構築していくこと、また、学問以外のプラスアルファのところ、学生達が触れあえるような魅力的な場であることを学生達が認知するように持って行ってほしい。このエリア全体を魅力的につくって、忙しい学生達に来てもらえるようにしてほしい。
- ・ 大学コンソーシアム京都にしても、この三大

学にしても、隣同士に並んでいるわけではなく、それぞれの間に距離があり、机上では理想なことが掲げられるが、一人一人の学生にとって、講義のコマがぎっしり詰まっている多忙なスケジュールの中で、あっちへ行ったりこっちへ行ったりしなければならない「大学間の移動」がもたらす課題を是非視点としてご検討いただきたい。

- ・ 大学コンソーシアム京都における単位互換については、加盟校からの提供を受け、加盟校学生が随時関心のある科目を登録、受講し、それを単位互換科目として授業を展開しているが、三大学連携の中で取り組まれているような開講曜日の設定などを協議するような形にはなっていない。コンソーシアムにおいても、科目提供は個別的であるので、今後、全体像を明確にしながら、単位互換を一層充実させていく方法を議論しなければならないと思っている。
- ・ 成績評価は難しい。ルーブリックなど教育的手法も最近提起されているが、大学教育の中できちんと共有化されていない面もある。シラバスでは、いくつかの大きな単位で割合を明示しているが、もっと厳密に、项目的に分析的に評価していくことにより、学生の現状を意識して、成長の方に展開していく、幾つかそういうものも提起されている。そういう新しい教育方法や手法についても議論し共有化できるものであれば考えていただきたい。

【専門委員】

- ・ 設置者が異なる三大学が教養教育の共同化という形で大学間連携を進める大学教育改革は、独創的で優れた試みである。教養教育を一層豊

かなものに改善していくために、学生からの意見聴取や大学コンソーシアムと連携した公開研究会の開催、学外関係者からの意見聴取も積極的である。機構は、責任ある実施体制を組織として備えている。

- ・ 学生目線に立った教務事務のすり合わせ、教養教育カリキュラムにおける順次性の具体化を進めていく他、申請書に書かれた達成目標や成果、教育プログラムの構築や連携校間の役割分担、組織的な整備などの実施状況や補助金の適正使用について、中間報告で明示する必要がある。また、取組の評価方法として、教育内容のより客観的な評価を導入する計画があると書いているので、少なくとも計画の簡略な概要を中間報告では明記することが望まれる。
- ・ 委員から指摘のあった学生の大学間移動がもたらす影響という現実的な問題を中間評価の課題に入れてもらいたい。
- ・ 大学院教育等も視野に入れた広義の教養教育を追求し、京都の地域性と関連させながら新たな教養教育、京都モデルを重要視している三大学の連携は画期的である。リベラルアーツセンターや教育 IR センターという PDCA サイクルを念頭に置いた推進体制、バランスのとれた 68 共同化科目の提供、アクティブラーニング等を視野に入れたリベラルアーツ・ゼミナールの設置などが評価できる。
- ・ リベラルアーツ・ゼミナールと京都学は、文化、社会、自然の各科目群から抽出され、二つのカリキュラムポリシーが重なる形になっているが、今後、科目群としての自主性をどう確立していくのか、また、リベラルアーツ・ゼミナールの教育目標は、講義が中心の他の科目群と

同じものとして扱えるのかどうか、精査が必要である。

- ・ 医科大学は、特別な分野であったり、三学期制であったりと難しい部分があると思うが、少なくとも1年目に関しては、交流が進んでいる府立大学や工繊大に比べて医大の交流割合が低くとどまっているので、稲盛記念会館の完成を機に活性化を工夫いただきたい。
- ・ 教養教育の議論で一番難しい問題は「学修成果の測定」であり、計画にあげている新入生調査、難しい部分もあるが卒業生調査も非常に重要になってくると思うが、ナンバリングやルーブリックなどいろいろな手法が提案されているので、今後、教養教育カリキュラムを見直すに当たって活用し、また、教育情報の公表、大学ポर्टレートなどいろいろな動きがあるので、そういうものに対応できるものにしていけば立派な事業になる。
- ・ GPAを導入すれば、必ずしも正確な成績評価になる訳ではないが、GPAによって出てきた成績に極端なものはないか、内部資料などからチェックするところから始める手法はある。
- ・ 工繊大がスーパーグローバル事業に採択されて、今後、事業は違うが、「京都の国際化」という点で、プログラムの中で英語による発信も非常に重要になっているので、是非頑張してほしい。
- ・ 伝統と実績を持つ個性の異なる三つの大学が、垣根を取り払い教養教育共同化の機会を提供するアイディアは画期的。異なる大学同志の相互作用によって、新しい教養教育を創造し、京都という土地が持つ文化的資源を活用して教養教育効果を高めていくことに特徴があり、目

標は三大学が置かれている条件や環境に適合している。

- ・ 運営委員会、共同化授業実施委員会についてはめざましい動きをし、リベラルアーツセンターの教員がキーパーソン、あるいはコーディネーターとして事業を進めてきた実績も高く評価する。
- ・ 自然科学と人間の組合せは、「現代の科学技術を人間化(ヒューマライゼーション)しよう」というメッセージ性が感じられるが、人文科学、社会科学は元来人間に関わるものであり、改めて「人間と文化」、「人間と社会」の科目群を設定しても、新しい意味が生じるとは思われず、科目群の名称をもう少し考え直した方がよい。「人間と社会」は、現代社会を生きる上で必要なリベラルアーツ科目がバランス良く配されているが、学問の深さをどう考えどう確保するかが問題だろうと思う。
- ・ 京都学に関して、京都というのは、ある時代やある分野では京都文化のステータスを高めた「日本そのもの」であるが、それとは別に「京都独特のもの」の二重性が存在すると思う。ここでの京都学はどちらを主張し発信するのが注目される。
- ・ 現代の教養教育をどう考えるか、各大学の教養教育との住み分けをどうするかという難しい問題がある。担当者がどのようなガイドラインに沿って開講すべきかが必要である。
- ・ 教育の内部質保証システムの問題が、教育IRセンターでは授業アンケート評価に偏りすぎている印象があるが、最も重要なポイントは成績評価の質である。学生の満足度や達成度というのは、履修科目の成績評価が適正かどうか影響される。三大学教養独自の基本システム

は存在せず、各大学の教務システムとの整合性は視野に入っていない。成績評価の質を管理することは、組織の重要な役割の一つであるので、難しい問題ではあるが取り組んでいただきたい。

- ・ 個々の教員の固有の主義による成績評価は、他大学での評価に影響を及ぼすことになり、統計的なデータを取っておく必要がある。また、100人を超えるとフィードバックが一人の教員の手に負えないものとなる。さらに、三大学の学生はそれぞれ個性も異なるので、試験の仕方についても、「今のやり方が妥当かどうか」の検証が必要になる。要するに、フィードバックが適切に行われれば信頼性が高くなる。学生にとっては、成績評価は京都三大学の教養教育に対する信頼性の問題となり、「あそこの受講科目の成績は妥当だ」という評判が定着すれば、将来にとって非常によいことになる。
- ・ 少人数の学生参加型の授業として、リベラルアーツ・ゼミナールが開講されているが、教育効果は上がるものの担当教員を増やさねばならない等の課題があり、ITの活用やクリッカーなどの小道具、ティーチングアシスタントの組織化などを検討し、三大学の連携により組織性の高い授業を進めてほしい。

(参考) 三大学教養教育運営協議会委員名簿

<委員>

- 座長 赤松 徹眞 大学コンソーシアム京都
理事長 (龍谷大学学長)
- 柏原 康夫 京都商工会議所副会頭
(株式会社京都銀行代表取締役会長)
- 山内 修一 京都府副知事
- 山本 壮太 古典の日推進委員会ゼネラルプロデューサー (府文化環境部参与 元NHK京都放送局長)
- 冷泉 貴美子 公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事

<専門委員>

- 江原 武一 立命館大学教育開発推進機構教授 (京都大学名誉教授、京都府公立大学法人評価委員)
- 圓月 勝博 同志社大学教授 (大学教育学会理事)
- 小笠原正明 大学教育学会長 (北海道大学名誉教授)

※五十音順

文責 事務局

(2) 専門委員による評価意見

ア 三大学教養教育共同化の取組に関する外部コメント

立命館大学 教育開発推進機構 教授（京都大学名誉教授、京都府公立大学法人評価委員）

江原 武一

I 教養教育に関する 責任ある実施体制の構築

(1) 京都三大学教養教育研究・推進機構の設置

京都工芸繊維大学・京都府立大学・京都府立医科大学の三大学は、平成 17 年度より、三大学連携推進協議会を組織し、教養教育部会、企画委員会、事務全体会議、ワーキンググループという体制で、教養教育共同化の検討を進めてきた。その後、平成 24 年 9 月に、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択された後、専任の教職員を備えた「京都三大学教養教育研究・推進機構」を設置した。

(2) 京都三大学教養教育研究・推進機構の教学組織 —リベラルアーツセンターと教育 IR センターの役割—

京都三大学教養教育研究・推進機構には、三大学の副学長と機構の専任教員からなる運営委員会が組織されている。また、京都三大学教養教育研究・推進機構には、教学企画を担当する「リベラルアーツセンター」と、質保証を担当する「教育 IR センター」の二つが組織されている。リベラルアーツセンターと教育 IR センターの構成員は、京都三大学教養教育研究・推進機構の専任教員と三大学それぞれからの兼任教員からなる。リベラルアーツセンターは専任教員 3 名と兼任教員 3 名で構成されており、教育 IR センターは専任教員 1 名と兼任教員 3 名で構成されている。

京都三大学教養教育研究・推進機構の組織としての特徴は、次の二点である。第一に、リベラルアーツセンターを組織することで、学生の多様化

や時代の変化に対応した教学企画機能を有している点である。第二に、教育 IR センターを組織することで、全学的な見地から自己点検・評価機能とファカルティ・ディベロップメントを推進している点である。このように京都三大学教養教育研究・推進機構は、二つのセンターが協力して「時代が求める新たな教養教育」を推進することにより、教養教育に関する責任ある実施体制を実現することを目指している。

(3) 教養教育共同化施設の建設

京都三大学教養教育研究・推進機構が実施する取組において特筆すべきことは、平成 26 年 9 月に、京都市の北山地区に三大学の学生が同じ教室で共に学ぶ「教養教育共同化施設」を建設したことである。三大学の学生のために建てられたこの施設は、鉄筋コンクリート造り 3 階建て、延べ床面積約 9,100㎡である。施設内には講義用の教室は 17 教室、ゼミナール用の教室は 3 教室、その他に視聴覚室やコンピューター室やレストランなどが完備されている。

この共同化施設は三大学の中でキャンパス間移動が発生する京都工芸繊維大学からも徒歩でわずか 15 分程度の距離にあるので、大学間連携を実質化する大きな推進要因になると考えられる。新たな学び舎において、平成 26 年度より講義形式 61 科目、ゼミナール形式 7 科目の計 68 科目が開講される。このように共同化施設を建設したことで、三大学の学生の修学環境の充実が図られている。なお建設にあたっては、京都に本社を構える京セラ名誉会長の稲盛和夫氏から 20 億円の寄付があり、教養教育の京都モデルを構築することへの期待が強く感じられる。

(4) 京都三大学教養教育研究・推進機構の事務組織

京都三大学教養教育研究・推進機構の事務局は、現在7名のスタッフで構成されている。京都府公立大学法人本部経営戦略室の3名に加えて、嘱託職員が4名採用され、いずれも京都三大学教養教育研究・推進機構専属の事務スタッフとして配置されている。事務局は教養教育共同化施設の1階に位置し、事務スタッフは教養教育共同化の業務に専従している。このように事務局が直接、大学間連携を推進するために、責任ある事務局体制をとっているところに、機構の事務組織の優れた特徴がある。

II 大学間連携の契機と 大学間連携の質保証

(1) 大学間連携の契機

京都工芸繊維大学は1学年600名で工芸科学部の1学部からなる。京都府立大学は1学年400名で文学部、公共政策学部、生命環境学部の3学部からなる。京都府立医科大学は1学年200名で医学部の1学部からなる。

これらの三大学が連携することになった契機は、次の二点である。第一に、三大学はキャンパスが近接している。第二に、三大学はいずれも小規模で、強みとなる専門分野が異なっているため、大学間連携を図ることで相乗効果が期待できる。

上記二点に加えて、平成24年度の文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」における取組の採択、京都府や地元産業界からの積極的な支援などが、京都三大学教養教育研究・推進機構の取組

を強力に後押ししている。

(2) 大学間連携の質保証

① 共同化授業実施委員会の設置

従来の大学間の単位互換制度を超えて、大学教育の共同化という形で大学間連携を進めていこうとすれば、学年暦や時間割の調整をはじめ、さまざまな制度的な調整や標準化が必要になる。京都三大学教養教育研究・推進機構では、三大学の教員と職員が定期的に集まる「共同化授業実施委員会」を組織し、学年暦、時間割、シラバス、履修登録、休講基準、定期試験、非常勤講師の資格審査などといった実務的な課題の共有と、それらの解決に努めている。こうした組織による教務事務の「すり合わせ」は、今後、全国的に展開される大学間連携の質保証を推進する上で、優れた先行事例となるだろう。

② 学年暦・時間割の調整

教養教育共同化を実現するための授業の再構築は、第一段階として、月曜日の午後に集中して授業を開講することからスタートする。月曜日の開講に関しては、ハッピーマンデーの他の曜日への振替を含め、全15回の授業時間数を三大学すべての学生に保証している。また、三大学の1回生の時間割では、月曜日の午後は共同化科目のみを開講している。そのため、三大学のすべての1回生は月曜日の午後には、教養教育共同化施設で共同化された教養科目を履修することになる。

③ 履修登録の調整

科目定員に関しては、従来、配当教室を調整することで学生の履修希望に対応していたが、教養教育共同化科目では、各科目で定員を設けることにしている。この科目定員のルールでは、科目提供大学が履修定員の50%を確保し、残りの席数

を二大学の学生比率に応じて配分する。履修希望者が定員を超えた場合は、抽選を行う。そのため、抽選にもれた場合を想定し、学生は同時間帯に複数の履修希望を出せるような履修登録制度を採用している。

履修登録に関しては、残席数の大学間での融通など、履修登録期間を三大学ですり合わせることで、学生の履修希望に応えられるように、引き続き検討する必要がある。

III 授業改善のための意見聴取の状況

(1) 学生からの意見聴取

教育 IR センターでは、京都三大学教養教育研究・推進機構が掲げる「教育の目標」をもとにした調査票を作成し、年に1回、全1回生を対象に「1年次生アンケート」を実施している。また年に2回、すべての開講科目を対象にした「授業アンケート」を実施することにより、重層的な調査体制を構築している。さらに授業アンケート実施後、科目担当者会議を開催し、アンケート結果を踏まえた授業改善のためのファカルティ・ディベロップメントを実施している。

たとえば、ディスカッション能力の育成や教員との対話のある双方向の授業を目指すゼミナール科目では、教員が掲げる教育目標と学生が授業を受けた後の学習成果実感を対比することで、双方向討論型授業や教員から学生へのフィードバックに焦点を合わせたファカルティ・ディベロップメントを実施している。

(2) 大学コンソーシアム京都と連携した公開プログラム

「大学コンソーシアム京都」と連携して、教養教育に関する研究会を開催し、全国の教養教育担当者に公開している。一大学で企画できるファカルティ・ディベロップメントのプログラムは限られているが、三大学が共同して運営する教育 IR センターを設置したことで、教員研修のプログラムは大幅に増えている。

平成25年度から、「教養教育の再構築とカリキュラム・ポリシー—『問う力』を育てる教養教育の実践—」、「学生調査の理論と調査票の設計」など、計6回の公開研究会を開催している。教養教育や質保証に関するホットなテーマを扱い、毎回、全国の大学から40名程度の参加者がある。このように教育 IR センターのファカルティ・ディベロップメントの取組は三大学のみならず、他大学にも開かれており、質保証の取組を牽引する役割を果たしている。

(3) 学外関係者からの意見聴取

京都三大学教養教育研究・推進機構の外部に、行政機関や京都の経営者、学識経験者を構成員とする「三大学教養教育運営協議会」を設置して、毎年度の事業計画や事業実績を報告し、教養教育に関する評価や助言などを得ている。

運営協議会の委員は、赤松徹眞氏（大学コンソーシアム京都理事長、龍谷大学学長）、柏原康夫氏（京都商工会議所副会頭、京都銀行代表取締役会長）、山内修一氏（京都府副知事）、山本壯太氏（古典の日推進委員会ゼネラルプロデューサー、京都府文化環境部参与、元 NHK 京都放送局長）、冷泉貴実子氏（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常

務理事)の5名で構成されている。

平成26年度からは、運営協議会の中に教養教育に関する専門委員制度を設け、江原武一氏(立命館大学教育開発推進機構教授)、圓月勝博氏(同志社大学文学部教授)、小笠原正明氏(大学教育学会会長、北海道大学名誉教授)の3名に委嘱している。

このように京都三大学教養教育研究・推進機構には、学外関係者からの意見聴取を教育改善に結び付ける質保証システムが整っている。

IV 今後の課題

設置者の異なる三大学が教養教育に関する責任ある実施体制を構築し、教養教育の共同化という形で大学間連携を進める大学教育改革は、日本の大学改革の中でも非常に独創的で、実施する意義のある優れた改革の試みだといってよいだろう。特に、平成24年に採択された文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」によって設置された京都三大学教養教育研究・推進機構は、教学企画を担当する「リベラルアーツセンター」と、質保証を担当する「教育IRセンター」という二つの組織により、時代が求める新たな教養教育を実質的に推進している。

また、京都市の北山地区に三大学の学生が同じ教室で共に学ぶ「教養教育共同化施設」を建設するとともに、その円滑で効果的な管理運営のために、学年暦や時間割をはじめ、シラバスや履修登録、定期試験、非常勤講師の資格審査などの具体的な方針や内容、手続き、ノウハウについて、京都三大学教養教育研究・推進機構の専任教員や事務スタッフの他、三大学の教員と職員が協力して検討し、教養教育共同化の改善充実に努めている

のは望ましいことである。

さらに、教養教育をいっそう豊かなものに改善するために、学生からの意見聴取や大学コンソーシアム京都と連携した教養教育に関する公開研究会の開催、学外関係者からの意見聴取にも積極的に取り組んでいる。

これらの点を考慮すると、京都三大学教養教育研究・推進機構はすでに、三大学の共同化された教養教育に関する責任ある実施体制を組織として備えており、機構の自己改革や改善に役立つ独自の仕組みも内蔵していると考えられる。今後の課題は、そうした優れた制度的な仕組みをさらに効果的に運用したり、活用したりするために、さまざまな工夫と改善を試みることである。

京都三大学教養教育研究・推進機構の自己点検・評価を踏まえた今後の課題の中で、特に重要なのは次の四点である。

(1) 学生目線に立った教務事務のさらなるすり合わせの推進

三大学間の教務事務のすり合わせは、大学間連携の制度的基礎となる。特に、学生の履修希望に可能な限り応えるために、履修登録方法や履修登録期間など、さらなるすり合わせが必要である。

たとえば、教養教育共同化施設が完成した後、平成26年度後期からの学生の履修行動を分析することが教育IRセンターの課題となる。また、大学間連携の方針が、単位互換から大学教育の共同化へと踏み込んだことにより、学生の履修行動にどのような変化が生まれるのかを、データに基づいて自己点検・評価するIR活動も求められるだろう。

(2) 教養教育カリキュラムにおける 順次性の具体化

一般的にカリキュラム論は、次の二つの軸に沿って検討される。第一の軸は Scope（開講科目の幅）であり、第二の軸は Sequence（開講科目の順次性）である。京都三大学教養教育研究・推進機構は、大学間連携を図ることで、学生の科目選択幅を学科によっては2～5倍へと大幅に拡大したので、Scope に関しては格段に充実させた。また従来、大規模授業が中心であった教養教育科目において、ゼミナール方式の授業を設けたことは、三大学の学生の交流を深め、ディスカッション能力を鍛える点でも有効だと考えられる。

しかしその一方で、平成24年度の申請書にも記されているように、「ナンバリング」という教養教育科目の体系的な順次性をどのように具体的に示すかが、今後の課題だろう。それは、学生の認知能力の発達に合わせて、どのように順次性のある教養教育科目を開講していくのかという問題である。どの大学においても、教養教育のカリキュラム編成は、ややもすると Scope の視点から行われがちだが、さらに、Sequence の視点を加えたカリキュラム開発が進めば、高度教養教育科目の具現化や共同化という点で、多くの大学の参考になる取組となるだろう。

(3) 当初計画と具体的な実績の自己点検

その他に、「大学間連携共同教育推進事業」平成24年度採択取組の中間評価の実施に対処するためには、文部科学省の『「大学間連携共同教育推進事業」中間評価の実施について（案）』を参照し、今後の課題として、あるいは事業の中間評

価の評価項目として、次の点にも配慮する必要があるように思われる。

第一に、連携取組の達成目標や成果に対する進捗状況については、平成24年度の申請書に記された達成目標や成果が平成26年度までにどの程度進捗し、具体的に何がどのように達成されたのかを、申請時の計画に沿って明示する必要がある。それと同様に、教育プログラムの構築や連携校間の役割分担、取組を実施するための組織的な整備などといった、連携取組の実施状況についても、当初の計画と具体的な実績との関連を、申請時の計画に沿って明示する必要がある。

(4) 教育内容のより客観的な評価

第二に、文部科学省の重点的な財政支援を受けた取組を実施する際には、競争的な公的資金による事業として、事業を効果的に実施していることや補助金の使用が適正であることなどを中間評価でも明示する必要があるように思われる。そのためには、たとえば平成24年度の申請書にも記されているように、連携取組の評価方法として「教育内容のより客観的な評価」を導入する計画があるとしたら、少なくともその計画の簡略な概要を中間評価では明記することが望まれる。なお、「授業アンケート」は学生が大学教育によって身につける能力や学習成果を間接的に評価する指標だと考えられているので、より直接的な評価指標を開発する必要があるだろう。

イ 三大学教養教育共同化に係る評価報告書

同志社大学 教授（大学教育学会 理事）

圓月 勝博

1. 目的の妥当性

本事業の目的は、時代の変化とともに教養も変化するという立場に立って、「新しい時代の要請に応じた教養教育カリキュラム」を構築することである。上記の目的は、中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（平成24年）においても強調されていた教養教育再構築の必要性に適切に応えるものであり、非常に妥当なものとして高く評価できる。さらに、教養教育を専門教育の準備と考えるのではなく、教養教育の自律的な教育目標を重んじ、大学院教育における教養教育の再定義も将来的な課題として視野に入れていることは、大学院教育課程の整備も急務となっている現代日本の高等教育改革と照らして、意欲的な基本方針と判断できる。

新たな教養教育を構想するにあたって、「京都モデル」の発信を重視していることは、「大学のまち・京都」を代表する京都府立大学、京都工芸繊維大学、京都府立医科大学の三大学の連携事業として、極めて適切な方針であり、とりわけ高く評価できる。グローバル化の急速な進展の中で、地域文化の意義を再評価することの重要性が明らかになっている今、教養を地域社会との関連性で再考することは、現代的な問題意識に裏付けられた取組であり、特筆に値する。さらに、高度な専門研究の実績に基づいて、地域に密着した教育活動を展開してきた上記三大学の個性を発揮するために、地域研究の総合的展開を目指す方針は、大学の機能別分化をめぐる議論の発展も視野に入れており、豊かな文化的資源を有する京都という地域の特性とあいまって、本事業を類例のないものにしていく。

上記の点を鑑みて、本事業の目指しているもの

は、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」として非常に妥当性の高いものと判断できる。

2. カリキュラム及び授業科目設計の妥当性

教養教育共同化にあたっては、まず、「京都三大学教養教育研究・推進機構」が設置されており、責任体制が明確にされている。さらに、上記機構の中に、企画実践の責任部署である「リベラルアーツセンター」と、質保証機能の責任部署である「教育IRセンター」を設けることによって、PDCAサイクルに基づく自己点検・評価活動を恒常的に実施することを想定して、適切な推進体制が整備されている。

カリキュラムの設計にあたっては、「知の共通基盤」と「人間性の基礎」を培うという教育目的が明確に示された上で、コミュニケーション能力、問題発見能力及び課題解決能力、異文化理解能力などの具体的な教育目標が掲げられており、「新しい時代の要請に応じた教養教育カリキュラム」に関する説得力ある基本方針が明文化されている。

上記の基本方針を実現するために、平成26年度においては、「人間と文化」（23科目）、「人間と社会」（26科目）、「人間と自然」（19科目）、「リベラルアーツ・ゼミナール」（7科目）、「京都学」（10科目）の5つの科目群に68科目が設置されている。それぞれの設置科目数も過不足なく、開講場所も三大学のバランスが全般に良好に保たれており、適切なカリキュラムが編成されているものと判断できる。ただし、「リベラルアーツ・ゼミナール」と「京都学」は、その設置科目数が「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」設置科目数の内数になっていることからわかるよう

に、上記3分野科目群に含まれる下位区分として位置づけられており、科目群としての自律性が低い点は、カリキュラム・ポリシーの一貫性の点で不満が残るので、今後のさらなる整備を検討する必要がある。なお、それぞれの科目には、「授業目的区分」も表記されており、受講者である学生の視点に立った見識ある教育的工夫として高く評価できる。

5つの科目群の中で、「リベラルアーツ・ゼミナール」と、「京都学」は、本事業の特長を端的に表すものとして特筆に価する。「リベラルアーツ・ゼミナール」は、受講者を1クラス30名に限定しており、ともすれば大講義教室における一方通行のマスプロ教育の代名詞として、大学設置基準の大綱化以前には批判の対象となっていた教養教育の旧来のイメージを一新するものである。さらに、「社会の諸問題について議論する力を高める」ことを学習到達目標として明記することによって、アクティブ・ラーニングと教養教育の融合を目指している点で、今後の成果報告に大きな期待が寄せられる。また、「京都学」は、「京都で学びたい」あるいは「京都を学びたい」という学生の期待に応えようとする科目群であり、「京都モデル」の発信を使命とする三大学の特色溢れる試みである。たとえば、京都工芸繊維大学が提供する「京の意匠」や「京の産業技術史」、京都府立大学が提供する「京都の農林業」や「京都の自然と森林」などは、本事業の特質を端的に表す科目であり、その教育的価値は高い。それだけに、京都府立医科大学からの提供科目がないことは少し残念である。今後、京都府立医科大学の使命と教育理念及び豊かな実績を踏まえて、京都の医療文化などに関する科目提供を積極的に検討し、京都の地域教育を牽引する三大学の特色をさらに積

極的に発信することが期待される。

3. 現時点までの経緯及び到達状況の評価

事業の運営は、申請書の実施計画に従って、全般に適切な運営が行われているものと判断できる。

まず、事業初年度にあたる平成24年度においては、体制整備・理念構築・開発着手を年度目標として、公開研究会を4回開催するとともに、他大学視察も積極的に行い、上記の年度目標を達成するための情報収集と検討作業が適切に行われた。とりわけ、リベラルアーツセンターのもとで、本事業の中心の一つとなる「京都学」について、三大学の共通理解の形成に努める一方で、教育IRセンターのもとで、本事業に必要なIR活動についての基礎的作業を円滑に進めた点は、実施計画に忠実に基づく運営であると判断できる。

事業2年目にあたる平成25年度においては、過年度の成果を踏まえて、開発推進・IR等実施・共同化授業実践準備を年度目標として、具体的な実施案が適切に策定された。次年度の開講を控えて、学年暦の調整などを現実的に進めるために、検討チームを設置して、リベラルアーツセンターと連携して「共同化授業実施委員会」を新たに設置したことは、実効性の高い工夫として評価できる。その結果、学年暦については、3学期制を採用している府立医科大学に対する適用方法が若干変則的になり、今後の課題が残りはしたが、共同化に向けて実施可能な枠組み作りが誠実に推進された点は、本事業に取り組む三大学の見識ある姿勢を示している。また、「共同化授業実施委員会」の設置により、「共同化の理念・目的」及び「共同化科目の整備・構築」の最終案が明文化されて、

新たに作成されたホームページ等で広く発信されるようになったことは、近年の大学教育改革において強く求められている教育情報の公表に応えるものであり、時代の要請に応える取組として評価できる。さらに、教育情報の公表に関して、「共同化の取組の府民との共有」を重視して、三大学教養教育共同化フォーラムを2回開催し、地域社会への発信を推進した点は、本事業の目的を適切に踏まえた取組として特筆に価する。

事業3年目にあたる平成26年においては、前年度の計画どおり、「人間と文化」(23科目)、「人間と社会」(26科目)、「人間と自然」(19科目)、「リベラルアーツ・ゼミナール」(7科目)、「京都学」(10科目)の5つの科目群に68科目が開講されており、順調な運営が実施されているものと判断できる。履修登録者数も、全般に適切な人数になっており、本事業が学生の教育ニーズに応えるものであることが確認できる。大学別の提供科目数は、京都府立大学11科目、京都工芸繊維大学15科目、京都府立医科大学4科目、また、大学別の履修登録者数は、京都府立大学1,439人、京都工芸繊維大学1,534人、京都府立医科大学272人となっており、京都府立大学と京都工芸繊維大学は、早くも十分な成果を示しているが、それに比べると、京都府立医科大学に関しては、さらなる推進方策の検討が必要であろう。また、平成26年度には教養教育共同化施設「稻盛記念会館」が完成し、後期から36科目が開講されることになっており、京都三大学教養教育研究・推進機構のもとで、三大学の学生交流がさらに促進されることが期待される。

4. 今後の課題

今後の課題として、カリキュラム・ポリシーの

整備、三大学連携体制の強化、学修成果の評価指標の明示と評価結果の発信の3点を指摘しておく。

①カリキュラム・ポリシーの整備

教養教育カリキュラムとして、「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」の伝統的な3分野科目群に加えて、「リベラルアーツ・ゼミナール」と「京都学」という2つの科目群を設置するカリキュラム・ポリシーは、きわめて適切な試みとして高く評価できる。しかし、「リベラルアーツ・ゼミナール」と「京都学」の2つの科目群は、「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」の科目から教育内容・方法に照らして特定科目を抽出して作成されており、科目群としての自律性が確立していない点は、今後の検討課題である。とりわけ、定員を30名に設定して、少人数で運営される「リベラルアーツ・ゼミナール」と、講義科目が中心の「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」とは、明らかに学習目標も授業運営も異なるので、科目独自の教育目的を明確にするために、事業計画に記載されていた大学の機能別分化や大学院教育への展開も視野に入れながら、カリキュラム・ポリシーの整備をさらに推進する必要がある。

②三大学連携体制の強化

開講初年度を迎えた平成26年度の連携は、上記の提供科目数と履修登録者数だけを見てもわかるように、京都府立大学と京都工芸繊維大学の二大学が中心に推進する共同事業に、京都府立医科大学が参画しているというのが現状である。学生交流の点でも、他大学及び京都三大学教養教育研究・推進機構提供科目を受講している学生の人数

は、平成 26 年度において、京都府立大学が 163 人、京都工芸繊維大学が 203 人であるのに対して、京都府立医科大学は 3 名にとどまっている。医科系教育の特殊性や 3 学期制採用による学年暦調整の難しさなどは十分理解できるので、すべての数字を均等にする必要はないが、教養教育共同化施設「稻盛記念会館」の完成を契機として、分野と個別大学の枠組みを超えた新たな教養教育を実現するために、三大学連携の強化を検討するべきである。

③学修成果の評価指標の明示と評価結果の発信

教養教育において、もっとも重要かつ困難である課題は、学修成果の測定である。この課題については、事業開始当初から明確に認識されており、たとえば、「平成 24 年度報告書（改訂版）」においては、授業評価、新入生調査、卒業生調査の実態分析が教育 IR センターから報告されている。今後、ナンバリング、ルーブリック、カリキュラム・マップなどの新たな教育学的手法も活用し、教育情報の公表促進の一環として、学修成果の評価指標の明示と評価結果の発信に積極的に取り組むべきである。

ウ 理想主義と個性－専門委員としてのコメント－

大学教育学会 会長（北海道大学 名誉教授）

小笠原 正明

京都三大学教養教育共同化の事業は、大学教育関係者の間で早くから注目されていた。京都という文化の香り高い土地で、伝統と実績を持つ個性の異なる3つの大学が、それぞれの垣根を取り払って教養教育の機会を提供するというアイデアは画期的である。今回、たまたま京都三大学教養教育研究・推進機構の運営協議会の専門委員に指名され、これまでとは違った立場から報告書等を精査する機会に恵まれたが、改めて関係者の理想主義と取組への意欲を感じている。ここでは形成的な評価の結果を、やや評価の枠組からはみ出さずかも知れないが、率直な形でお伝えしたい。

①教養教育共同化の目指しているものの妥当性について

平成25年度報告書の「はじめに」とその中で紹介されている資料「学生のみなさんへ」における記述によると、京都三大学教養教育共同化事業における教養教育（以下、「三大学教養」と略記）の理念は、次のように要約される。

1) 学生が様々な角度から総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力や豊かな人間性を培うようにする。

2) 共同化によって専門や将来の志望の異なる学生同士や教員との交流をはかる。

具体的には、第1に、時代が求める教養教育の課題として、A. 人文・社会・自然科学分野の学術の基礎の幅広い修得、B. 国際的なレベルでの豊かな人間性と高い倫理観の涵養、C. 社会問題において、真理や正義を探求するための思考法、コミュニケーション力の向上、の3つをあげている。第2に、三大学の学生が混在していることや、京都が文化的な環境に恵まれていることを利用し

た、特徴のある教育を生み出すことを課題としてあげている。

ここで注目されるのは、教養教育を安易に読み書きの力やコミュニケーション力等のジェネリックスキルの向上のための教程とみなすのではなく、「リベラルアーツ」（リベラルアーツ・アンド・サイエンスに含まれる分野を指すと思われる――評者注）のディシプリンにもとづく伝統的な原理で構築しようとしていることである。（なお、課題Aは、文脈から言って「ディシプリンの体系性に基づく学修」だと思うが、「学術の基礎の幅広い修得」だけでは説明として不十分だと思う。）要するに三大学教養の理念・目標の特徴は、教養教育に関するオーソドックスな考え方を基礎にしながら、異なる大学同士の相互作用によって新しい教養教育を創造しようとしていること、また京都という土地が持つ文化的資源を活用し、教養教育の効果を上げようとしていることに特徴がある。表現されている理念・目標は3大学が置かれている条件や環境に適合しており、その成果が大いに期待される。ただしその妥当性は、教育課程の設計や運営に具体的にどのように反映されているかを見ることによって検証されなければならない。

②教養教育共同化のカリキュラム、授業目標設定の妥当性について

カリキュラムは人間と文化、人間と社会、人間と自然の3つの科目群に分かれており、その中から集中講義を含む「リベラルアーツ・ゼミナール」の科目と、「京都学」の科目がピックアップされて、それぞれ別の科目群として再掲されている。

3つの科目群は、人文科学・社会科学・自然科学の3分野の対応している。「自然科学」と「人間」との組み合わせには、現代の科学・技術を人間化(humanization)しようという教養教育にふさわしいメッセージ性が感じられるが、人文科学と社会科学はもともと人間にかかわる学問であるから、改めて「人間」をつけ加えても新しい意味が生じるかどうか疑問である。近い将来、科目群の名称を考えなおした方が良いかも知れない。例えば、「人間と文化」の科目群は京都学にかかわる科目を含めて魅力的であり、教養教育として何らかの主張が感じられるが、それが何であるかうまく表現されていない。担当者間で議論することによって科目群の意図を的確に表現する言葉を見出してもらいたい。「人間と社会」には現代社会を生きる上で必要なリベラルアーツ科目がバランス良く配置されている。ただし、この科目群では学問の深さ(depth)をどう考え、どう確保するかが問題になるだろう。「人間と自然」は科目群名とエントリーされた科目とのあいだに若干のずれがある。人間とのかかわりで科学と技術をとらげるとすれば、従来の入門や概論とは違ったアプローチが必要だろう。この科目群全体に影響を与えそうな議論については、後に触れる。

京都学はこの事業で最も注目される科目群である。現在エントリーされている科目の名称だけからはどのような方向に向かうか判然としないが、いずれは京都の「地方性」が持つ二重性に踏み込まざるを得ないだろう。ある時代のある分野では京都は日本そのものであり、それが京都文化のステータスを高めた。しかしそれと同時に、土地の人にしかわからない、本当に京都市的な習慣や文化や考え方があるように思う。京都の地方性に厚みと魅力が感じられるのは、この二重性によると評

者は考えている。京都学が前者に力点を置くか、後者を掘り起こして相対化する方向に向かうかは注目されるところである。いずれにせよ、このカリキュラムは京都で学ぶ学生のアイデンティティの形成に役立つだろう。

③現時点までの経緯、到達状況について

学務(academic affairs)については、3大学の副学長、リベラルアーツセンター及び教育IRセンターの教員等からなる運営委員会が最終決定機関になっている。3大学から各1名の兼任教員及び3名の専任教員からなるリベラルアーツセンターと、3大学から各1名の兼任教員及び1名の専任教員からなる教育IRセンターが学務サイドの実働部隊であることは容易に想像がつく。特に、機構の教員でもある両センターの教員が、キーパーソンあるいはコーディネーターとして事業を進めてきた実績は高く評価される。

事務的業務(administration)の要である「共同化授業実施委員会」は、実務レベルの具体的な作業を担当するため各大学に設けられた検討チームとリベラルアーツセンターが合体して出来たという。この委員会は短期間のうちに3大学の学年暦を調整し、三大学教養科目の開講帯を設定し、さらに履修登録システムを構築するなど、目覚ましい働きをした。歴史と伝統を持つ複数大学の学年暦等を調整するのは本当に難しい仕事だと思う。これらの問題が解決された背景には、3大学中、二大学が一つの公立大学法人として統合されていることも影響しているのだろう。京都府公立大学法人本部の副事務総長が教養教育共同化の総括者として機構オフィスに常駐している効果も大

きいと思う。三大学教養が3つの大学を結びつけ、大学間の交流を促進していることは、事業の成果の一つに数えられる。

④ 今後の課題

現在の到達地点に立って、すぐにでも検討しなければならない課題が3つある。

1つ目として、現代のリベラルアーツ（アンド・サイエンス）をどう考えるか、またそれを中心に据えた場合に、各大学における教養教育との棲み分けをどう行うかという難しい問題がある。報告書にはギリシャ・ローマの自由七科と「教養教育の伝統的なスタンス」に言及しているだけで、具体的な指針がない。開講科目を国際的に認められた学術分野(academic disciplines)に絞るとしても、どのようなガイドラインに基づいてそれぞれの授業を行えば良いのだろうか？ 一つの例として、人文・社会科学系科目担当者会議報告で児玉特任准教授は「問う力・書く力」を鍛えることを強調している。ここまで整理されているのであれば、ガイドラインとして採用する方向で検討することが望ましい(平成25年度報告書、72頁)。同じく自然科学系科目担当者会議報告で大倉教授は、「数学教育は数学という学問それ自体が備えている性格により教養教育という側面を持っている」、また「歴史的な視点から数学の題材を取扱うことにより、人と数学の本来の健全な関係がとりもどせるのではないかと本質的な提起を行っている(同70頁)。「人間化された科学」の教育は、このようなスタンスから生まれるのではないだろうか。

2つ目は、学習成果の把握と質保証について、未だに方向性が見出されていない点である。平成24年度の報告書で石田教授は、IR準備調査と

して、シラバスや成績などの教務情報管理状況、授業評価、卒業生調査および新入生調査について三大学の現況を調査し、それぞれについてバランスの取れた問題提起を行っている。しかし、1年後の報告書を見ても具体的な進展は見られない。教育の内部質保証システムの問題が、「教育改善を先導する組織」と「FD」の問題に還元されてしまい、教育現場からはむしろ遠ざかった感がある。IRというセンターの組織名称に引きずられたためか、学生による授業評価アンケート調査に関心が偏り過ぎているように思う。学習成果の把握と内部質保証でもっとも重要なポイントは成績評価の質である。学生の満足度や達成度は、履修科目の成績評価が適正かどうかに影響されるのであって、その逆ではない。しかし、現状では三大学教養独自の教務システムは存在せず、従って、各大学の教務システムとの整合性も視野に入っていない。成績評価の質を監視することはIR組織の重要な役割の一つである。難しい問題が多々あるとは思うが、早々に取り組んでいただきたい。

最後に、三大学教養における教育支援の必要性について触れておきたい。このプログラムにおいても少人数による学生参加型の授業として「リベラルアーツ・ゼミナール」が開講されている。少人数教育にすれば教育効果があがることは言うまでもないが、担当教員を増やすという人海戦術で授業の双方向化を達成しようとするこれまでのやり方には限界がある。コースマネジメントシステムなどのIT、クリッカーなどの小道具、ティーチングアシスタントの組織化などで、大きなクラスでもアクティブラーニングが可能であることは実証されている。取組の趣旨から言っても、教育支援システムを完備したより組織性の高い、新しい授業を3大学の連携によって実現して欲しいと思う。

資料編

京都三大学教養教育共同化による「新しい時代の要請に応じた教養教育」の実践

背景

地球環境の危機や一地域の変化が全世界の人々に影響を与えるほどのグローバル化の進展により、社会全体の枠組みが大きくかつ急激に変化している。

加えて、東日本大震災は多くの尊い命を奪い、生活や産業に深刻な打撃を与えるとともに、それに併発した原子力発電所の事故は暮らしとエネルギーの問題を投げかけるなど、国民全体が幸福感や社会関係のあり方を深く問い直す状況が広がっている。

また一方、被災地では、住民同士の助け合いや国内外からのボランティアによる救援・復興活動が展開されており、「人を思いやる心」や「人と人との絆の大切さ」が再認識されている。

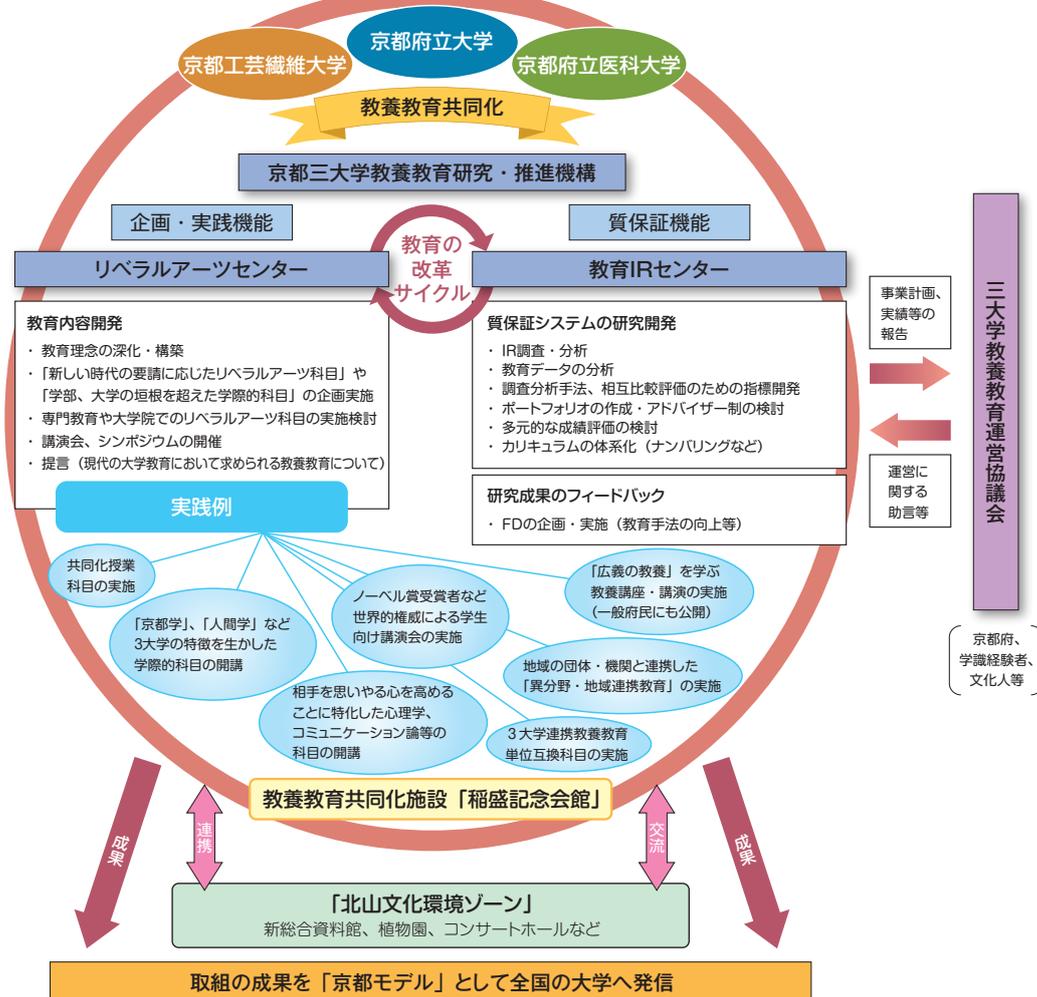
取組コンセプト

国公立三大学の教養教育カリキュラムを「共同化」し、それぞれの大学の特徴・強みを生かした質の高い、「新しい時代の要請に応じた教養教育」を実施する。

人材養成の目標

次の①～③を備えた人材を養成する。

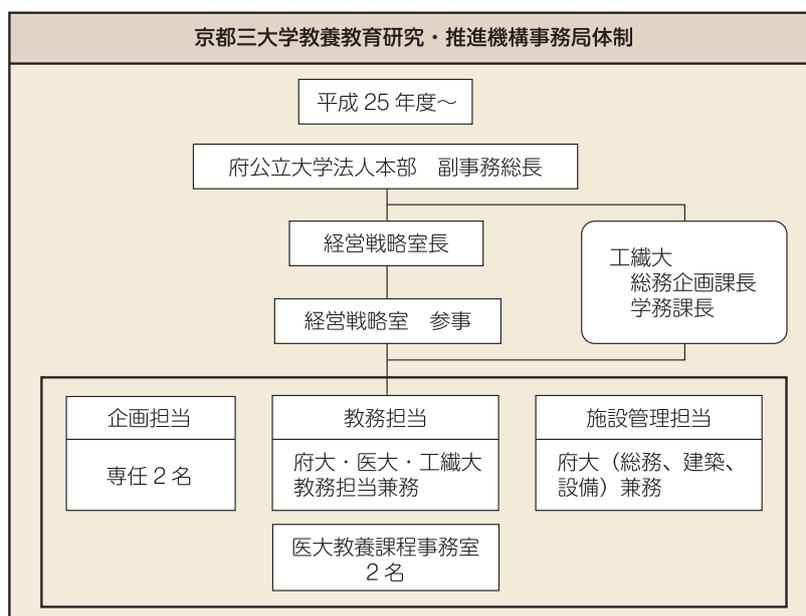
- ①異なる価値観や視点を持つ他者と協働する力としてのコミュニケーション能力及び相手を思いやる心
- ②自ら問題を発見し、それにコミットするとともに、「正解」の存在しない問題についても、学際的な視点に立ち、多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かって行動する能力
- ③グローバルな局面で、文化や言語を異にする他者と交流し協働する能力



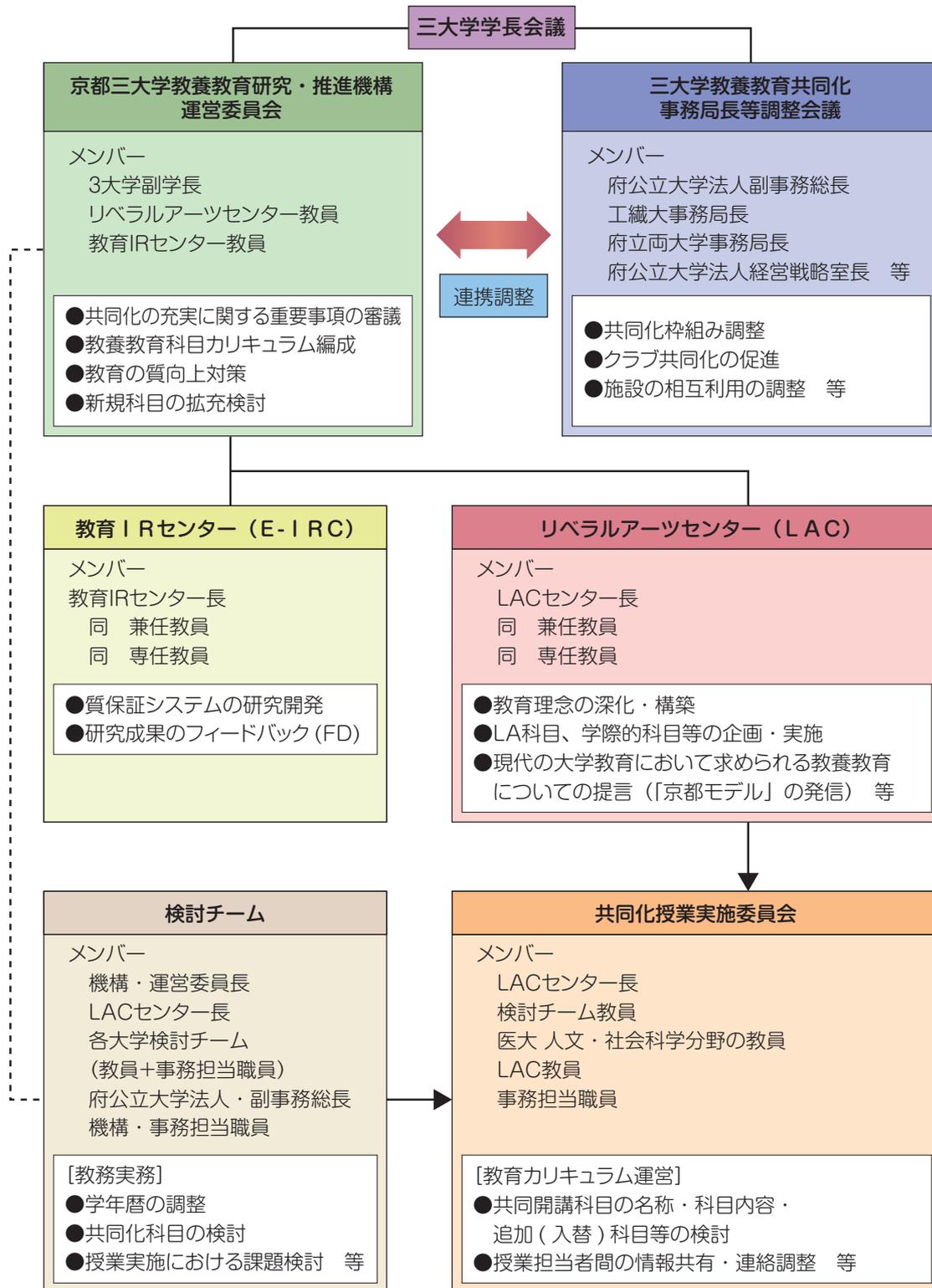
平成 26 年度京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会 委員名簿

平成 27 年 1 月

大学名	京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会							
	担当副学長		リベラルアーツセンター		教育 I R センター		規約第 4 条第 2 項による者	
	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
京都工芸 繊維大学	副学長	大谷 芳夫	言語・ 文化部門 教授	平井 亮輔	センター長 数理・ 自然部門 教授	大倉 弘之		
京都府立 医科大学	副学長	伏木 信次	センター長 教養教育部長	小野 勝彦	物理学教授	上原 正三	学生部長	田代 啓
京都府立大学	委員長 副学長 (教務部長)	小沢 修司	教養教育 センター長	金澤 哲	生命環境学部 生命分子化学科 教授	石田 昭人		
京都三大学 教養教育研究 ・推進機構			特任教授 林 哲介				京都府 公立大学法人 副事務総長	森本 幸治
			特任教授 脇田 哲志					
			特任准教授 藤井 陽奈子	特任准教授	児玉 英明			



三大学教養教育共同化推進体制



教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の概要

1 設置趣旨

100年を超える歴史を持つ京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学の三大学が、それぞれの大学の特徴・強みを生かしたカリキュラムを提供し、学生の多様な関心に応え、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性を持つ人材の育成を目的に、全国初となる教養科目の共同化を平成26年度からスタートさせています。

この教養教育共同化施設「稲盛記念会館」は、新たな文化・学術・環境を発信する「北山文化環境ゾーン」整備のメイン施設の一つとして、平成24年10月に建設着工し、平成26年9月に竣工式を迎えました。

本年4月から開始した教養教育共同化授業は、京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学の三大学それぞれのキャンパスで開講していましたが、教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の完成に伴い、後期授業からこの施設での授業を開始しました。

今後、この施設は「時代が求める新たな教養教育」の拠点として、三大学の学生が一堂に会して学び、教職員や府民の皆さまとの多様な交流を支える施設として期待されています。

この施設の建設につきましては、その趣旨に御賛同いただきました京セラ株式会社名誉会長稲盛和夫様から、京セラ株式会社の創業の地でもある京都府に対して多額の御寄附をいただきました。



2 建物の概要

■所在地 京都市左京区下鴨半木町1番5

■総工事費 約28億円

■工事期間 平成24～26年度

■構造・規模 鉄筋コンクリート造り 陸屋根 地下1階 地上3階建て 延床面積 9,088.73㎡

■主な整備内容

○三大学学生と一緒に学ぶ豊かな学修空間の創出

・豊富な教養教育が提供できる講義施設の整備

マスプロ教育を避けるため200人規模を最大に17教室を整備
(同時に最大1700人程度収容可)

・京都府立医科大学教養教育施設(花園学舎)の移転(研究室、実習室など)

・多様な学修環境の充実

視聴覚室(100人程度)、コンピューター室(80人程度)、研究ゼミ室(各10人程度:3室)

・自学自修環境の充実

自習室(60人、30人:2室)

○府民等との交流スペースの整備

・三大学の学生・教員間の交流の場であり、かつ、府民の皆さまが気軽に利用できるレストラン

・稲盛記念展示室

○京都議定書の街にふさわしい環境に配慮した建物、ゆとりある空間

・エコボイド(吹き抜け空間を各階の自然換気、自然採光に利用)

・雨水・井水の雑用水利用

・太陽光パネル設置

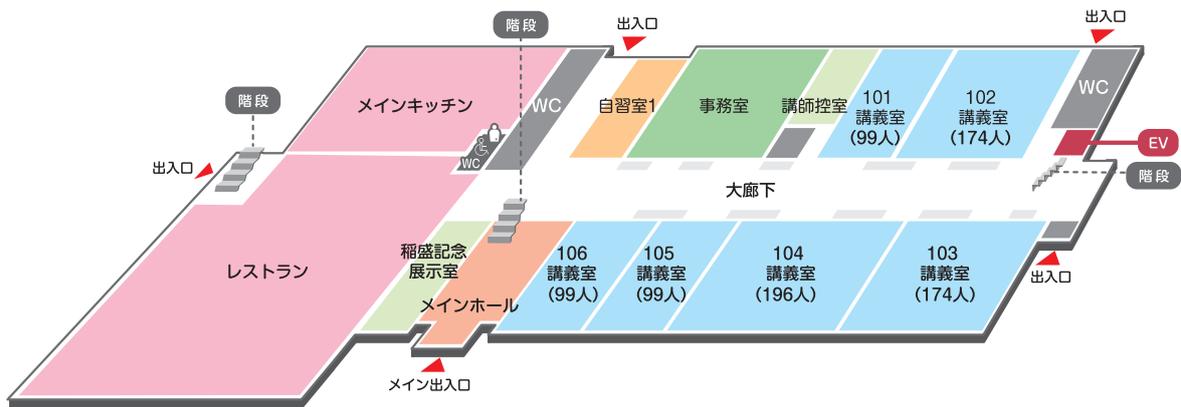
・ゆとりある廊下

・大型ガラス窓による植物園の緑や自然採光を活かしたリフレッシュ空間の創出



■ 建物ゾーニング

1階 府民利用・学生交流フロア



稲盛記念展示室



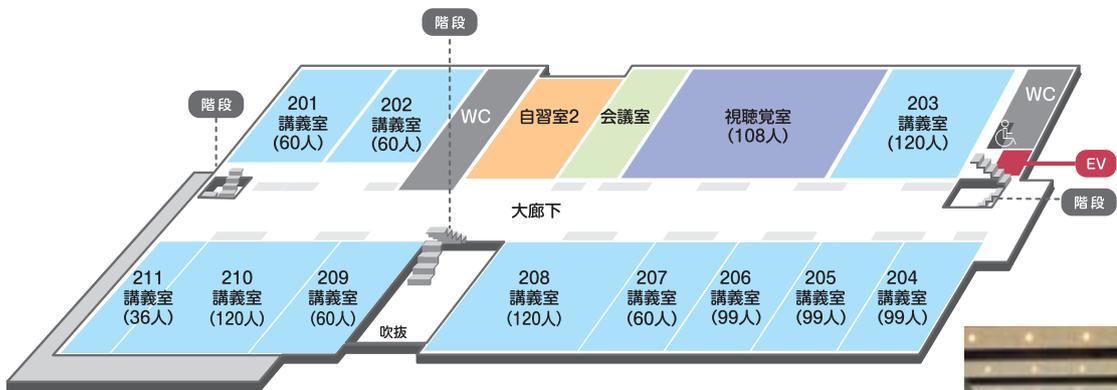
レストラン



104 講義室 (196人)

- ▶ 講義室6室
 - ・196人：1室
 - ・174人：2室
 - ・99人：3室
- ▶ 自習室
- ▶ 稲盛記念展示室
- ▶ レストラン
- ▶ 事務室

2階 学生講義室フロア



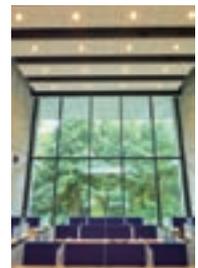
- ▶ 講義室11室
 - ・120人：3室
 - ・99人：3室
 - ・60人：4室
 - ・36人：1室
- ▶ 自習室
- ▶ 視聴覚室



207 講義室 (60人)

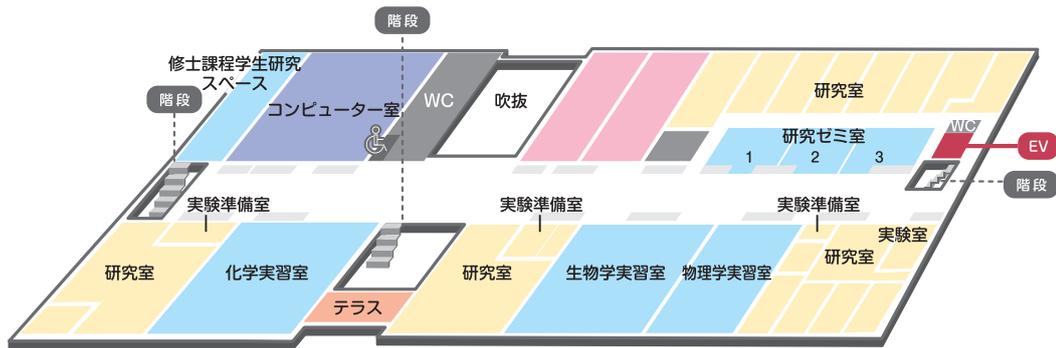


視聴覚室



自習室 2

3階 研究等フロア



コンピュータ室



研究ゼミ室 1



生物学実習室

- ▶ 京都府立医科大学
 - ・ 研究室
 - ・ 化学実習室
 - ・ 生物学実習室
 - ・ 物理学実習室
 - ・ 実験準備室
 - ・ コンピューター室
- ▶ 研究ゼミ室



会議の審議状況、視察・学会参加状況

○ 運営委員会 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成26年4月30日(水) 午後4時～午後5時40分	京都府立大学 本館2階 第1会議室	【委員紹介・委員長選出】 1 平成26年度運営委員の紹介 2 運営委員長の選出 3 両センター長選考結果の報告 【報告・協議事項】 ・登録履修状況 ・単位互換科目の履修登録状況 ・共同化科目授業担当教員の身分の取扱いについて ・各大学における教養教育科目のカリキュラム編成と共同化科目の扱いについて 【報告事項】 1 文部科学省中間評価実施時期の変更について 2 平成26年度教養教育共同化に係る具体的取組整理表について 3 「京都学事始一近代京都と三大学一」展覧会・シンポジウム・授業について 4 共同化施設(稲盛記念会館)の整備状況について 5 今後の進め方について 6 次回運営委員会の日程調整 7 その他
平成26年6月11日(水) 午前 9時～午前10時20分	京都府立大学 本館2階 第1会議室	【協議事項】 1 共同化授業実施委員会・代表者会議での審議状況について 2 平成27年度学年暦について 3 教養教育共同化の取組に係る外部評価について 4 平成26年度活動計画について ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 5 今年度の運営委員会の日程について
平成26年7月7日(月) 午後6時～午後7時30分	京都府立大学 本館2階 第1会議室	【協議・報告事項】 1 平成27年度学年暦について 2 各センターからの報告 ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 3 第一四半期の予算執行状況及び補助金の執行に係る留意事項について 4 その他 ・運営協議会専門委員の選任について(経過報告及び運営協議会規則の改正) ・京都学関係(内容・スケジュール等の時点修正)

<p>平成26年8月6日(水) 午後5時～午後6時10分</p>	<p>京都府立大学 本館2階 第1会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本年度後期実施の共同化科目について <ul style="list-style-type: none"> ・実施教室の決定 ・履修定員の変更 ・学生への周知 2 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 3 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・共同化科目「京都学事始—近代京都と三大学—」の一環としての展覧会及びシンポジウムの開催について ・次回運営委員会の開催日時等について (終了後、稲盛記念会館の現地見学)
<p>平成26年9月10日(水) 午後4時30分～午後5時35分</p>	<p>教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成27年度学年暦について 2 稲盛記念会館竣工式について 3 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供(京都工芸繊維大学の広報誌「KIT・NEWS」7月号から) ・次回運営委員会の開催日時等について
<p>平成26年10月8日(水) 午後4時30分～午後5時35分</p>	<p>教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 三大学教養教育共同化の取組状況について(中間評価の評価項目等を踏まえて) 2 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 3 本年度上半期の補助金予算執行状況 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・府広報番組で三大学教養教育共同化を放映(10/21(火)KBS京都)の紹介 ・次回運営委員会の開催日時等について

<p>平成26年11月5日(水) 午後4時30分～午後6時45分</p>	<p>教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 三大学教養教育運営協議会の審議結果について 2 三大学連携教養教育単位互換科目の取扱いについて 3 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回運営委員会の開催日時等について
<p>平成26年12月3日(水) 午後4時30分～午後6時30分</p>	<p>教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 三大学連携教養教育単位互換科目の取扱いについて 2 共同化授業実施委員会の検討状況について 3 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 4 共同化科目「京都市事始～近代京都と三大学～」の 展覧会及びシンポジウムの開催結果について 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度活動報告書の作成について ・大学コンソーシアム京都第20回FDフォーラム へのポスター展示について ・次回運営委員会の開催日時等について
<p>平成27年1月7日(水) 午後4時30分～午後5時45分</p>	<p>教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「学生のみなさんへ」の改正について 2 平成27年度共同化科目一覧について 3 共同化科目の履修登録に係る各大学定員枠の調整 について 4 平成27年度共同化科目開講時間割について 5 平成27年度共同化科目教室割当について 6 共同化授業実施委員会の検討状況について 7 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 8 本年度の補助金予算の執行状況及び見通しについ て 9 平成27年度文部科学省大学間連携共同教育推進 事業予算等について 10 「三大学教養教育共同化」についての府立大学の 学生ワークショップ開催結果について 11 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度3大学連携教養教育単位互換科目に ついて ・今後の開催日時等について

<p>平成27年2月4日（水） 午後4時30分～午後6時40分</p>	<p>教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学間連携共同教育推進事業の中間評価に係る進捗状況報告書等について 2 平成27年度3大学連携教養教育単位互換科目について 3 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 4 平成27年度「受講案内」の作成について 5 「共同化科目担当教員の授業実施に当たっての留意事項」の作成について 6 本年度の補助金予算の執行状況及び見通しについて 7 平成25年度大学間連携共同教育推進事業の実績報告書に対する文部科学省からの確認及びそれに対する回答について 8 平成27年度共同化科目に係る大学間のデータ交換期限について 9 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の開催日時について
<p>平成27年3月4日（水） 午後4時30分～午後5時10分</p>	<p>教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室</p>	<p>【協議・報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学間連携共同教育推進事業の中間評価に係る国への提出資料及び面接評価の実施について 2 平成27年度大学改革推進等補助金調書の提出について 3 各センターからの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツセンター ・教育IRセンター 4 本年度の文部科学省事業予算の執行状況について 5 平成27年度共同化科目の講義室配当表（前期及び後期第1回目）について 6 その他

○ リベラルアーツセンター会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成26年5月21日(水) 午前9時～午前10時30分	京都府立大学 2号館1階 文学部会議室	1 年間の活動計画について 2 申請書への対応に関して
平成26年6月18日(水) 午前9時～午前10時30分	京都府立大学 2号館1階 文学部会議室	1 今年度の取組課題について
平成26年7月17日(木) 午後5時～午後7時10分	京都府立大学 2号館1階 22番教室	1 共同化科目の定員枠について 2 新設科目開講にむけての準備等 3 その他のLAC取組課題について 4 長崎大学視察報告
平成26年10月2日(木) 午後2時30分～午後4時30分	教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室	1 永田和宏先生による講演会の実施について 2 来年度の共同化授業について (1) 脇田特任教授からの報告 (2) 藤井特任准教授より新設科目の報告
平成26年10月29日(水) 午後4時～午後6時	教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 2階 会議室	1 各大学から来年度開講予定の共同化科目の報告 2 三大学教養教育運営協議会を受けて (1) 京都学について (2) 授業目的区分ABCの記載内容 3 12月の講演会の報告
平成26年12月1日(月) 午後6時～午後7時30分	教養教育共同化 施設 「稲盛記念会館」 3階 研究ゼミ室1	1 来年度の共同化科目の確認(新規科目を含む)及び時間割 2 授業目的区分ABCの文言について 3 12月21日の講演会について 4 12月12日の京都学担当者会議について 5 単位互換科目の取扱いについて

○ 教育 IR センター会議 審議状況

日時	場所	審議事項
平成 26 年 4 月 30 日 (水) 午後 5 時 50 分～午後 7 時 30 分	京都府立大学 本館 2 階 第 1 会議室	1 前期授業アンケートの実施方法について 2 全体としてのアンケートについて
平成 26 年 5 月 28 日 (水) 午後 5 時 40 分～午後 7 時 40 分	京都府立大学 合同講義棟 2 階 第 1 会議室	(各大学教務担当者を含む拡大会議) 1 授業評価アンケート実施について(三大学分と機構分) 2 機構アンケート用紙の確定と回収後の取扱い 3 質保証に生かせる登録情報等から抽出できるデータの検討 4 3 大学毎の授業評価アンケートの結果の機構としての利用可能性について 5 「整理表 II」について
平成 26 年 6 月 6 日 (金) ～6 月 9 日 (月)	メール会議	1 機構アンケート用紙の確定について 2 教育 IR センター報告書について 3 「整理表 II」について
平成 26 年 8 月 6 日 (水) 午後 6 時 20 分～午後 7 時 50 分	京都府立大学 合同講義棟 2 階 第 1 会議室	1 機構アンケートのフィードバックの在り方について 2 大学 IR コンソーシアムについて 3 アンケート以外のデータ活用 4 公開研究会(8月11日)について
平成 26 年 9 月 10 日 (水) 午後 5 時 40 分～午後 7 時 40 分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2 階 会議室	1 共同化科目担当者会議 2 機構アンケートのフィードバックについて 3 機構アンケートの分析について 4 専門委員への提出用自己点検書について
平成 26 年 10 月 20 日 (月) 午後 6 時 00 分～午後 8 時 20 分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2 階 会議室	1 共同化科目履修状況について 2 三大学教養教育 1 年次生アンケート(仮称) 3 前期授業アンケートについて 4 後期授業アンケートについて
平成 26 年 11 月 5 日 (水) 午後 6 時 55 分～午後 8 時 20 分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2 階 会議室	1 三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート(仮称)案について 2 ナンバリングについて 3 その他(運営協議会で専門委員から求められた事項への対応について)
平成 26 年 12 月 3 日 (水) 午後 6 時 40 分～午後 8 時 00 分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2 階 会議室	1 三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート(仮称)案について 2 後期授業アンケートについて 3 公開研究会(第 2 回, 第 3 回)・非公開研究会について 4 事業報告書執筆分担について 5 文科省中間評価について
平成 27 年 1 月 7 日 (水) 午後 6 時 20 分～午後 8 時 00 分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2 階 会議室	1 三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケートの実施について 2 当センター主催公開・非公開研究会 3 「授業公開」「再試験」「担当者会議」について 4 文科省中間評価への対応
平成 27 年 2 月 4 日 (水) 午後 6 時 40 分～午後 7 時 30 分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 3 階 会議室	1 1 年次生アンケート 2 担当教員アンケート 3 授業アンケートについて 4 報告書原稿について(EIRC 会議審議状況の確認等) 5 その他(第 2 回研究会の進行について)

○ 京都学関係打合せ会 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成26年5月20日(火) 午後1時～午後2時20分	京都府立大学 本館2階 応接室	1 講義「京都学事始—近代京都と三大学—」の開講 日程・講師依頼の確認 2 展覧会とシンポジウムの広報・印刷物について (1) 学生公募結果報告、応募作品の検討 (2) ポスター、チラシ、図録の仕様 (3) シンポジウムの内容 (4) 今後のスケジュール 3 展覧会の進捗状況
平成26年6月13日(金) 午後1時～午後2時20分	京都府立大学 本館2階 第一会議室	1 展覧会の会期確認 2 講義内容について 3 シンポジウムの概要 4 展覧会の展示内容について
平成26年7月7日(月) 午後2時45分～午後3時45分	京都府立大学 本館2階 第一会議室	1 シンポジウムの開催要項について 2 展覧会とシンポジウムのチラシ・ポスターの構成 について 3 「京都学事始展」について (1) オープニングセレモニーについて (2) 来年度以降の開催について (3) 図録の構成について
平成26年7月29日(月) 午前10時30分～正午	京都府立大学 本館2階 応接室	1 展覧会とシンポジウムのチラシ・ポスターの最終確認 2 「京都学事始展」について (1) 出品資料の確定と図録の構成、コラム執筆依頼 (2) オープニングセレモニーについて (3) 図録の配布先 3 来年度以降の講義「京都学事始」について
平成26年9月5日(金) 午前9時～午前10時30分	京都府立大学 本館2階 応接室	1 展覧会の最終確認 2 展覧会とシンポジウムのプレスリリース等の報告 及びアンケートの内容確認 3 レクチャー付き記者発表について 4 受講を希望する科目等履修生への対応 5 シンポジウムの進行について
平成26年10月7日(火) 午前9時～午前10時20分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2階 会議室	1 展覧会の中間報告 2 シンポジウムについて 3 来年度の授業内容について
平成26年11月18日(火) 午前10時30分～正午	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2階 会議室	1 展覧会とシンポジウムの開催報告、アンケート集 計結果 2 講義の一般聴講者への対応について 3 来年度の授業内容について
平成27年1月16日(金) 午前9時～午前10時20分	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2階 会議室	1 来年度の授業内容について 2 その他(来年度の時間割等)

○ 京都学担当者会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成26年12月12日(金) 午前10時30分～正午	教養教育共同化 施設 「稻盛記念会館」 2階 会議室	1 「医史学」を「京都学」に含めることについて 2 「京都学事始—近代京都と三大学—」の平成27年 度時間割について 3 現行の授業目的区分ABCの文言について 4 「学生のみなさんへ」の文章のうち京都学に関す る部分の表現について

○ 共同化授業実施委員会【代表者会議含む】 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成26年5月28日(水) 午前9時～午前10時30分 【代表者会議】	京都府立大学 本館2階 第1会議室	1 教養教育共同化に係る諸課題について(定期試験会場が分かれる場合の監督補助者の配置、学生証を忘れた場合の対応等)
平成26年6月9日(月) 午後5時45分～午後7時15分 【代表者会議】	京都府立大学 本館2階 第1会議室	1 教養教育共同化に係る諸課題について(上記課題に関する継続審議)
平成26年12月1日(月) 午前9時～午前10時30分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 会議室	1 来年度の共同化科目の開講時間割について 2 来年度の履修定員の取扱い、履修登録時期等について 3 教養教育共同化に係る教務関係の諸課題について(今年度後期の定期試験関係等)
平成26年12月24日(水) 午後2時30分～午後4時	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 会議室	1 来年度の共同化科目の各大学定員枠調整に係る課題への対応について 2 来年度の共同化科目開講時間割について 3 教養教育共同化に係る教務関係の諸課題について(共同化科目の再試験、授業公開、成績報告期限)

○ 共同化科目担当者会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項等
平成26年10月1日(水) 午後4時～午後6時	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 206講義室	1 前期の教養教育共同化科目の実施状況等についての報告 2 意見交換

○ 視察先及び学会参加一覧

日付	視察・学会先	視察・参加者	備考（報告内容等）
5/17	関西地区FD連絡協議会「FD活動報告会2014」（京都大学）	児玉英明 片山和彦	児玉・片山報告： 「平成26年4月から京都三大学（京都工芸繊維大学・京都府立大学・京都府立医科大学）の『教養教育共同化』が始まります」 （ポスター報告）
5/31～ 6/1	大学教育学会「第36回全国大会－研究と実践の往還から創出する知識－」（名古屋大学）	林哲介 大倉弘之 児玉英明	児玉報告①： 「教養教育の原型を構成する二つの問い」（ラウンドテーブル14「教養教育の本流」） 児玉報告②： 「吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ教養教育論の規範」 （部会5「教養教育」）
6/3	大学評価・学位授与機構「大学機関別認証評価等に関する説明会」（大阪大学）	小沢修司 大倉弘之 児玉英明	
6/22	第2回教育学関連諸学会共同シンポジウム（中央大学）	藤井陽奈子	
7/4～5	長崎大学訪問（大学間連携共同教育推進事業視察）	藤井陽奈子	
7/12	第1回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム（京都大学）	藤井陽奈子	
7/23	フェリス女学院大学「2014年度第1回FD」	児玉英明	児玉報告： 「大学生に必要な『書く力』を育成するには－『問いの逆算』という指導法－」
7/24～25	東北大学高度教養教育・学生支援機構発足記念国際シンポジウム「21世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」（仙台国際センター）	児玉英明	
8/5	2014年度IRシンポジウム「IRの導入と教学評価体制－大学間連携の視座から－」（甲南大学）	小沢修司 児玉英明	
8/20～22	日本リメディアル教育学会「第10回全国大会」（東京電機大学）	児玉英明	児玉報告： 「京都三大学教養教育研究・推進機構における教職協働」（ポスター発表）

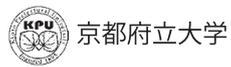
8/22 ~ 24	日本教育学会「第73回大会」(九州大学)	藤井陽奈子	
8/22 ~ 24	日本教育学会「第73回大会」(九州大学)	児玉英明	児玉報告： 「吉野源三郎に学ぶ教養教育の理論と思想 — 教養教育の源流をふまえた質保証—」(部会「教育理論・思想・哲学(a)」)
8/30	近畿地区大学教育研究会「第83回研究協議会」(関西大学)	小沢修司 林哲介 藤井陽奈子 児玉英明	
9/12 ~ 14	日本教育社会学会「第66回大会」(松山大学)	藤井陽奈子	
9/11 ~ 12	第16回基盤教育ワークショップ(山形大学)	児玉英明	
9/17	第18回ファシリテータ研修会(京都産業大学)	児玉英明	
10/25	2014年度公開FDワークショップ「表現教育の可能性 大学生のための文章表現『パーソナル・ライティング』をめぐる」(成城大学)	児玉英明	
11/8	2014年度FD研修会「大学教育の再構築—学生を成長させる大学へ—」(神奈川大学)	児玉英明	
11/15	日本書籍出版協会京都支部「第11回文化講演会 読書の面白さ、大切さ」(京都商工会議所)	児玉英明	
11/19	産学協同就業力育成シンポジウム2014「未来を創る『主体的な学び』を实践する—Future Skills Project 4年間の挑戦」(明治大学)	藤井陽奈子	
11/22	大学コンソーシアム京都「20周年記念講演会」(キャンパスプラザ京都)	築山 崇 児玉英明	
11/29 ~ 30	大学教育学会2014年度課題研究集会「日本における大学教育の意義」(神奈川工科大学)	林哲介 大倉弘之 児玉英明	

12/5	大学コンソーシアム京都「第12回高大連携教育フォーラム 高大接続と学力形成ー達成度テストについて考えるー」(キャンパスプラザ京都)	児玉英明	
1/31	京都ジョブパーク「シンポジウム 多様化する学生に向き合う大学キャリア教育の現状と課題」(京都テルサ)	児玉英明	児玉報告： 「教育情報公表義務化とリメディアル教育ー学生目線に立った対話とフィードバックのある授業を目指してー」
3/1	大学コンソーシアム京都「第20回FDフォーラム 学修支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか～」(同志社大学)	大倉弘之 児玉英明	大倉報告： 「数学の教養教育の試みー京都三大学教養教育共同化科目『人と自然と数学 α 』ー」(第8分科会「時代が求める新たな教養教育ー『活用』と『探究』をキーワードとした教職協働」) 児玉報告： 第20回FDフォーラム企画検討委員、第8分科会コーディネータ「時代が求める新たな教養教育ー『活用』と『探究』をキーワードとした教職協働」
3/13～14	第21回大学教育研究フォーラム(京都大学)	林哲介 児玉英明	児玉報告： 「吉野源三郎『君たちはどう生きるか』における教養教育の理念と方法ー中学生に向けて何をどのように伝えたのかー」(参加者企画セッション「日本における教養教育の史的展開」)
3/9	東京大学教養教育高度化機構シンポジウム「教養教育における社会連携と国際化ー教養教育高度化機構社会連携部門・国際化部門の回顧と展望」(東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE)	藤井陽奈子	
3/26	IDE 大学協会「高等教育研究フォーラム 入学者選抜の展望」(一橋講堂)	児玉英明	

平成 26 年度京都三大学教養教育共同化科目受講案内(抜粋)



平成26年度
京 都 三 大 学
教 養 教 育 共 同 化 科 目
受 講 案 内



学生のみなさんへ

京都三大学教養教育研究・推進機構

はじめに

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は、平成26年度より、それぞれの教育理念を基本にしながら、3大学が共同することによって飛躍的に充実する教養教育を、京都北山地域の特性を生かして実施することにしました。これは、これまで10年来、3大学が連携して教育や研究を充実・強化するために進めてきた検討を踏まえ、京都府と文部科学省の支援を得て実現することになったものです。

共同化する教養（リベラル・アーツ）教育では、カリキュラムを拡充して選択の幅を広げ、学生のみなさんの多様な関心・学修要求に応えるようにしています。学生のみなさんには、様々な角度から総合的に物事を観察し的確に判断できる能力や豊かな人間性を培うよう求めます。さらに、共同化によって専門や将来の志望の異なる学生同士や教員との交流を図ることができる条件を、勉学や学生生活に活かしてください。私たちは、下鴨・北山地域における新しい学生のライフスタイル、大学像が構築されることを期待しています。

I. 目指すもの

我が国の大学における教養教育は、戦後新制大学の発足以来一貫して、専門教育と並ぶ不可欠のものとして位置づけられてきました。しかしその在り方、システムや評価は時代によって変化し、社会からの要請や学生の受け止め方によって、ときには充実が求められ、また一方では形骸化を指摘されることもありました。現在の私たちは、経済のグローバル化による産業の空洞化、経済・社会の不透明・不安定化、少子高齢化、災害の巨大化、将来のエネルギー問題など様々な課題に直面し、ときには閉塞感を抱くこともあります。このような今の時代に、社会からは、眼前の利害や身の周りの空気のみで判断・行動するのではなく、主体的に行動し、多様な人々と連携・協同する豊かな感受性と高い倫理観を身につけることが求められています。私たちがとりこむ教養教育は、学生の皆さんが、高度な専門知識だけではなく学術の幅広い基礎的素養と科学的に思考する力を修得し、それらを基礎にして、文化や立場を異にする様々な人々と対話し議論する力や、書き、表現する力を育むことを目指します。

このような認識を踏まえ、京都三大学の共同化教養教育においては、第一に、時代が求める教養教育の課題を以下の3点に整理し、各授業科目に反映させます。

A. 人文・社会・自然諸分野の学術の基礎を幅広く修得するとともに、これらへの高い関心を育てること。

現代社会を生きていく市民として、諸科学の基礎的知識を幅広く修得することが求められる。大学受験に偏重した教育等の影響による修得知識の偏りを改善することも望まれる。しかし、限られた時間で修得できる知識は多くない。諸学問それぞれがもつ特有の視点に接することによって、関心・好奇心を醸成する。

B. 世界の人々の多様な生き方を感じ、豊かな人間性と高い倫理観を涵養すること。

世界の多様な地域における人々の生活、歴史の様々な時代における人々の思想や経験など、社会における人の生き方、感じ方に触れ、それらを自己に投影することによって自らの生き方を思考し省察しながら、豊かな人間性と高い倫理観を培う。歴史、社会、文化、芸術等を通して、人としての価値を考察し形成する。

C. 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟すること。

日々生起する諸問題の多くは、必ずしも解が単一ではない。立場、経験、志向などの異なる多様な者が解を求めて、何が必要であり何をすべきかを議論し解決に向かう試みを通して、読み書き等のリテラシーに必要なスキルを研鑽しながら、クリティカルシンキングやディスカッションを遂行する力を養うとともに、人とかかわるコミュニケーション力の向上を図る。

第二として、このような基本的な目的に加えて、京都三大学としての特徴を活かした教育を実現します。

1. 共同化科目の各教室では、将来の専門分野が異なる京都三大学の学生が混在して受講することによって、学修歴や志向の違いを越えた多面的な視点による学修や討論を実現します。
2. 伝統文化、芸術、街づくり、市民生活、地場産業など、京都に歴史的に生きている諸財産やその現代における展開を学修の素材とすることで、京都という地の特色を活かした教育を行います。それとともに、伝統文化をはじめ京都で歴史的に生きる諸財産を守り現代に生かすとともに、未来に拓く教育を実現します。

II. 実施の方針

京都三大学の共同化教養教育を運営していく組織として「京都三大学教養教育研究・推進機構」が設置されています。本機構のもとで、3大学それぞれから共同化に相応しい授業科目が提供され、また機構独自で工夫された特色ある科目が提供されます。これらの科目はすべて3大学の正規の授業科目として学生の自主的な選択に供されます。

提供される授業科目は、それぞれ上記の目的に沿って、**A. 幅広い基礎的知識の修得**、**B. 多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感じ思考する**、**C. 真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する**、の3つの性格があり、各授業が主としてどの性格をもつものかを示して、学生のみなさんの履修に供されます。みなさんには人文・社会・自然の3分野と共に、これらの性格で分けられた科目をバランスよく履修することが望まれます。そこではまた、これまでの学修歴による修得知識の偏りや狭さを改善することも期待されます。

教養教育のカリキュラム、授業のテーマ、内容や方法は固定的なものではなく、学修状況や授業の成果、みなさんからの要望等によって、常に改善・開発を図っていくものです。このため「機構」には「リベラルアーツセンター」と「教育IRセンター」の二つのセンターを設置し、カリキュラム等の改善・開発や学修の質評価等に係る調査・検討に取り組みます。これらの検討は、専ら教員の側のみで行うものではなく、みなさんの積極的な参加・協力が望まれます。学生のみなさんと教職員の協働によって、新しい豊かな学修フィールドの形成を図っていきます。

3 大学学長から学生のみなさんへ

21世紀の知識基盤社会が求める人材

京都工芸繊維大学 学長 古山 正雄

このたび、長年の検討調整過程を経て平成26年度から、京都にある文系・理工学系・医学系の異なる個性の3大学が連携して教養教育の授業を開始することになりました。この国立大学と公立大学が協働してカリキュラムの多様性と柔軟性を広げる試みは全国的にも初めてのもので、我が国はもとより世界に貢献しう、まさに21世紀の知識基盤社会が求める人材を育成できるものと確信しています。

現代社会は、大量消費社会がもたらした資源の枯渇、地球的規模の環境悪化、経済社会のグローバル化と不均等発展など深刻な諸問題に直面しています。一方、日本国内においても急速に進む少子高齢化、格差の拡大などを背景として、私たちは様々な社会問題を抱えています。

このような状況下において大学は、すべての学生に自らが専攻する専門分野とは別に人文・社会・自然にわたる幅広く普遍的な知を学習させ、倫理観や歴史観、国際的な視野を持たせる責務があります。

このことから本学では、人間形成に必要な教養を涵養し、科学技術と人間性との調和・融合を図ることができる広い視野と感性を備えた高度専門技術者を育成するための教育を実施してきました。今後も地域コミュニティの中核的存在として、様々な課題を解決することができる人材を輩出することが求められており、それに応える教育を実施していきます。

多様性の中で自分を生きる

京都府立大学 学長 築山 崇

生涯学習ということばを聞いたことがあると思います。学習・教育を、学校教育など制度化された特定の場・期間に限るのではなく、職業生活や日常の暮らしの中に場や機会を多様につくり、生涯にわたって学び続けることができる社会を実現していくことが、国際的潮流ともなっています。そして、生涯学習においては、知識・技能の修得とあわせて、「他者と共に生きる」「人間として生きる」といった理念が重視されています。

インターネットの普及もあって、今や世界中の出来事をリアルタイムで詳細に知ることができます。多様な文化や生活スタイルに接すると、自分自身を振り返ったり、自分とは異なる考え方・感じ方に接して刺激を受けたりすることがあると思います。「他者と共に生きる」「人間として生きる」という理念は、そのように多様性の中に身をおいて、自己の存在を意識的に問い続けていく、そんな生き方につながる学びを目指しています。

このたびの教養教育の共同化も、そのような考え方に重なる方向をもっています。専門性を身につけることとあわせて、多様性の中に自己の存在を見出していく学びを、共同化によって可能となった多彩な教養教育科目、大学の枠を越えた交流を通じて実現していきましょう。

人間性豊かな医療人になるために

京都府立医科大学 学長 吉川 敏一

教養教育は、人類が築き上げてきた知の体系を学ぶと同時に自己を確立する課程です。このような大きな目標は大学の教養教育の期間だけで達成できるものではなく、一生の全期間を通じて努力すべきものであり、今後の人生の基盤になるものです。

医学、看護学は純然たる自然科学のみではなく、人文科学、社会科学の要素を多分に含んでおり、不断の努力により幅広く深い教養を身につけるということは、患者さんの悩みや痛みがわかる人間性豊かな医療人となるためにとても大切なことです。

いよいよ平成26年度から京都三大学教養教育共同化がスタートしますが、受講科目の選択肢が増加し、学生のみなさんの多様な関心と教育要望にこれまで以上に応えられるようになります。

豊富なカリキュラムから基盤的な学力を身に付けていただくとともに、3大学の学生が同じ場所・同じ時間に講義を受け、異なる専攻分野の学生との交流を深めること、また、開かれたキャンパスにおいて多くの府民とふれあうことを通じて、他者を理解するコミュニケーション能力なども身に付け、それぞれの専門分野に向かって大きく育ててもらいたいと期待しています。

共同化科目の履修について

共同化科目とは

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の各大学が教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目としている科目群です。

1 単位

共同化科目は、各大学の正規科目であり、修得した場合の単位は、各大学の規定に則り付与されます。

2 授業日

下表のとおり、原則として**月曜日午後**に開講されます。月曜日が休祭日に伴う他の曜日への振替もありますので、注意してください。前後期とも最終週が試験日になります。

前 期	平成26年 4月：14日、21日、28日 5月：12日、19日、26日 6月：2日、9日、16日、23日、30日 7月：7日、14日、 24日(木) 、28日 8月：4日(試験日)	後 期	9月：29日 10月：6日、 15日(水) 、20日、27日 11月： 6日(木) 、10日、17日 12月：1日、8日、15日、22日 平成27年 1月：19日、26日 2月：2日、9日(試験日)
--------	--	--------	---

3 授業時間

月曜日午後の3つの時限(コース)に行われます。(各授業科目の開講時限(コース)は、巻末の時間割を参照のこと。)

時 限 (コース)	3	4	5
時 間	12:50 ~ 14:20	14:30 ~ 16:00	16:10 ~ 17:40

4 開講場所について

共同化科目は、原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内**共同化施設(稲盛記念会館)**にて開講されます。ただし、**平成26年度前期に限っては、共同化施設(稲盛記念会館)が工事中で使用できないため、3大学で開講**されますので、共同化科目一覧(3頁)や巻末の時間割などで十分に開講場所を確認してから履修するようにしてください。

5 履修の手続き

4~5頁の「平成26年度 授業科目の履修定員」などを参照の上、各大学において必要な履修登録の手続きを行ってください。

6 試験

定期試験は、上記2に掲げた「試験日」に、それぞれ授業の時間割どおり実施します。試験に関して必要なことは、前期試験の前に別途お知らせします。

7 休講基準

共同化科目の授業について、暴風警報等が発令された場合など次のいずれかの一に該当する場合は授業を休講とします。

- ①京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令された場合
- ②京都市営バス及び地下鉄が全面停止の場合
- ③JR西日本(京都駅発着の在来線)、阪急電鉄(梅田-河原町間)、京阪電鉄(淀屋橋又は中之島-出町柳間)及び近鉄(西大寺-京都間)の4交通機関のうち3以上の運行が停止の場合

警報の解除又は交通機関の運行再開(以下「解除等」という。)に伴う授業の取扱いは次のとおりです。

- ①午前6時30分までに解除等となった場合…平常どおり授業を実施
- ②午前10時30分までに解除等となった場合…午後の授業を実施

休講及び授業実施のお知らせは、各大学からそれぞれの連絡方法によりお知らせします。

上記の基準は、共同化科目に適用されるものであり、各大学で開講される授業の休講基準は、大学ごとに異なる点がありますので、各大学の基準に従ってください。

共同化科目一覧

科目群	科目名	担当教員	開講期	開講場所	授業目的区分		
					A	B	C
人間と文化 (23科目)	哲学	工・伊藤	後	共	○	○	○
	人間学	医・棚次	後	共	◎	○	○
	比較宗教学	工・若見	前	工	○	○	○
	宗教学	医・棚次	前	医花	○	◎	○
	日本史	工・昆野	後	共	○	○	○
	東西文化交流史	工・オーガスティン	後	共	○	○	○
	日本文学 I	医・工藤	前	医花	○	○	○
	日本文学 II	医・工藤	後	共	○	○	○
	西洋文学論	工・山下	前	工	○	○	○
	日本近現代文学	工・高木	前	工	○	○	○
	文芸創作論	医・藤田	後	共	○	○	○
	西洋文化論	工・山下	後	共	○	○	○
	ラテン語	医・松本	後	共	○	○	○
	音楽	工・山上	前	医看	○	○	○
	美と芸術	工・三木	前	工	○	○	○
	アジアの歴史と文化	府・中	前	府	○	○	○
	京都の文学 I	府・藤原	前	府	○	○	○
	京都の文学 II	府・藤原	後	共	○	○	○
	京の意匠	工・並木	後	共	○	○	○
	京都の歴史 I	府・榎木	前	府	○	○	○
	京都の歴史 II	府・小林	後	共	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ (現代イスラム世界の文化と社会)	機構・田村	集中 冬	共	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナールⅦ (感性の実践哲学)	機構・桑子	集中 冬	共	○	○	○
人間と社会 (26科目)	政治学	工・竹本	後	共	○	○	○
	現代の政治	府・依田	前	府	◎	○	○
	国際政治	府・依田	後	共	◎	○	○
	公共哲学	工・平井	前	工	○	○	○
	経済学入門	工・人見	後	共	○	○	○
	生活と経済	府・小沢	後	共	○	○	○
	現代日本と経済	府・熊澤	前	府	◎	○	○
	人文地理学 I	医・石川	前	医花	○	○	○
	人文地理学 II	医・石川	後	共	○	○	○
	現代京都論	府・宗田	前	府	○	○	○
	京の産業技術史	工・山田	前	工	○	○	○
	京都学事始 一近代京都と三大学一	機構・宗田 ほか	後	共	○	○	○
	文化社会学	工・工藤	後	共	○	○	○
	社会学 I	府・玉井	前	府	○	○	○
	社会学 II	府・玉井	後	共	○	○	○
	心理学	工・大谷	前	工	○	○	○
	現代社会と心	府・石田	後	共	○	○	○
	現代社会とジェンダー	府・小沢 ほか	前	府	○	○	○
	現代教育論	工・塩屋	前	工	○	○	○
	医史学	医・八木	後	共	○	○	○
	人権教育	工・杉本	前	工	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール I (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	後	共	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール II (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	前	府	○	◎	○
	リベラルアーツ・ゼミナール III (社会科学の学び方)	機構・児玉	後	共	○	◎	○
	リベラルアーツ・ゼミナール IV (現代社会と映画製作)	機構・長坂	集中 夏	府	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール V (アメリカと中国はいま)	機構・脇田	集中 冬	共	○	○	○
(再掲) 京都学 (10科目)	京都の文学 I	府・藤原	前	府	○	○	○
	京都の文学 II	府・藤原	後	共	○	○	○
	京の意匠	工・並木	後	共	○	○	○
	京都の歴史 I	府・榎木	前	府	○	○	○
	京都の歴史 II	府・小林 ほか	後	共	○	○	○
	現代京都論	府・宗田	前	府	○	○	○
	京の産業技術史	工・山田	前	工	○	○	○
	京都の農林業	府・宮崎 ほか	後	共	○	○	○
	京都の自然と森林	府・池田 ほか	前	府	○	○	○
	京都学事始 一近代京都と三大学一	機構・宗田 ほか	後	共	○	○	○
人間と自然 (19科目)	人と自然と数学α	工・大倉	前	工	○	○	○
	人と自然と数学β	工・塚本	後	共	○	○	○
	物理学 I	府・春山	前	府	○	○	○
	人と自然と物理学	工・萩原 播磨	後	共	○	○	○
	化学概論 I	工・三木	前	工	○	○	○
	化学概論 II	工・石川	後	共	○	○	○
	生物学概論 I	工・遠藤	前	工	○	○	○
	生物学概論 II	工・遠藤	後	共	○	○	○
	人類生態学	府・熊谷	後	共	○	○	○
	科学史	工・藤川	後	共	○	○	○
	科学と思想	工・林	後	共	○	○	○
	地球の科学	工・酒井	後	共	○	○	○
	宇宙と地球の科学	府・松村	後	共	○	○	○
	エネルギー科学	工・林	前	工	○	○	○
	環境問題と持続可能な社会	工・高月	前	工	○	○	○
	キャンパスヘルス概論	工・荒井	前	工	○	○	○
	食と健康の科学	府・木戸 ほか	前	府	○	○	○
	京都の農林業	府・宮崎 ほか	後	共	○	○	○
	京都の自然と森林	府・池田 ほか	前	府	○	○	○
(再掲) リベラルアーツ・ ゼミナール (7科目)	リベラルアーツ・ゼミナール I (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	後	共	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール II (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	前	府	○	◎	○
	リベラルアーツ・ゼミナール III (社会科学の学び方)	機構・児玉	後	共	○	◎	○
	リベラルアーツ・ゼミナール IV (現代社会と映画製作)	機構・長坂	集中 夏	府	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール V (アメリカと中国はいま)	機構・脇田	集中 冬	共	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール VI (現代イスラム世界の文化と社会)	機構・田村	集中 冬	共	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール VII (感性の実践哲学)	機構・桑子	集中 冬	共	○	○	○
(再掲) 京都学 (10科目)	京都の文学 I	府・藤原	前	府	○	○	○
	京都の文学 II	府・藤原	後	共	○	○	○
	京の意匠	工・並木	後	共	○	○	○
	京都の歴史 I	府・榎木	前	府	○	○	○
	京都の歴史 II	府・小林 ほか	後	共	○	○	○
	現代京都論	府・宗田	前	府	○	○	○
	京の産業技術史	工・山田	前	工	○	○	○
	京都の農林業	府・宮崎 ほか	後	共	○	○	○
	京都の自然と森林	府・池田 ほか	前	府	○	○	○
	京都学事始 一近代京都と三大学一	機構・宗田 ほか	後	共	○	○	○

担当教員 (それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。)
工：工芸繊維大学、**府**：府立大学、**医**：府立医科大学、**機構**：京都三大学教養教育研究・推進機構
開講場所
工：工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス、**府**：府立大学下鴨キャンパス、**医花**：府立医科大学花園学舎、**医看**：府立医科大学看護学学舎、**共**：共同化施設(稲盛記念会館)
授業目的区分 (○は該当するもの、◎は特に強調するもの)
A：人文・社会・自然諸分野の学術の基礎を幅広く修得するとともに、これらへの高い関心を育てる。
B：世界の人の多様な生き方を感じ、豊かな人間性と高い倫理観を涵養する。
C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。

平成26年度前期 授業科目の履修定員

- ・共同化科目について、下表のとおり科目ごとに履修定員が定められ、各大学ごとの定員枠も設定されています。
- ・授業は、各科目の提供大学で開講され、機構の提供科目については、府立大学下鴨キャンパスで開講されますので、注意してください。
- ・履修登録は、各所属大学の日程にしたがって、各所属大学で行います。希望者が多く各大学の定員枠を超える場合には、大学ごとに抽選を行い、履修者を決定します。抽選の結果、履修できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ・平成26年度前期については、授業をそれぞれの科目提供大学で行うため、異なる大学の科目を選択した場合、大学間の移動に時間がかかるケースが想定されます。履修登録の際には、各大学までの交通手段や移動時間についても十分考慮するようにしてください。

◇前期授業科目の履修定員

科目名	担当教員	科目定員(人)	うち工織大	うち府大	うち医大
比較宗教学	工・若見	100	80	13	7
宗教学	医花・棚次	115	5	3	107
日本文学Ⅰ	医花・工藤	115	5	3	107
西洋文学論	工・山下大	100	80	13	7
日本近現代文学	工・高木	140	110	20	10
音楽	医看・山上	100	9	6	85
美と芸術	工・三木順	170	140	20	10
アジアの歴史と文化	府・中	120	18	96	6
京都の文学Ⅰ	府・藤原	120	18	96	6
京都の歴史Ⅰ	府・櫛木ほか	299	45	239	15
現代の政治	府・依田	120	18	96	6
公共哲学	工・平井	140	110	20	10
現代日本と経済	府・熊澤	204	31	163	10
人文地理学Ⅰ	医花・石川	115	5	3	107
現代京都論	府・宗田	204	31	163	10
京の産業技術史	工・山田	200	170	20	10
社会学Ⅰ	府・玉井	204	31	163	10
心理学	工・大谷	140	110	20	10
現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	299	45	239	15
現代教育論	工・塩屋	160	130	20	10
人権教育	工・杉本	140	110	20	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅡ a (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅡ b (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
人と自然と数学α	工・大倉	100	80	13	7
物理学Ⅰ	府・春山	96	14	77	5
化学概論Ⅰ	工・三木定	100	80	13	7
生物学概論Ⅰ	工・遠藤	140	110	20	10
エネルギー科学	工・林	140	110	20	10
環境問題と持続可能な社会	工・高月	140	110	20	10
キャンパスヘルス概論	工・荒井	140	110	20	10
食と健康の科学	府・木戸ほか	69	14	50	5
京都の自然と森林	府・池田ほか	299	45	239	15

◇夏期集中開講科目の履修定員 (開講日程：8/28(木)～29(金)、9/4(木)～5(金) 各3・4コース)

リベラルアーツ・ゼミナールⅣ (現代社会と映画製作)	機構・長坂	30	10	10	10
-------------------------------	-------	----	----	----	----

※担当教員欄の「工」「府」「医花」「医看」「機構」は科目の提供大学・機関を示し、それぞれ京都工芸繊維大学、府立大学、府立医科大学花園学舎(医学科)、府立医科大学看護学学舎(看護学科)、京都三大学教養教育研究・推進機構です。

平成26年度後期 授業科目の履修定員

- ・共同化科目について、下表のとおり科目ごとに履修定員が定められ、各大学ごとの定員枠も設定されています。
- ・授業は、府立大学下鴨キャンパス敷地内の**共同化施設（稲盛記念会館）にて開講**されます。
- ・履修登録は、各所属大学の日程にしたがって、各所属大学で行います。希望者が多く各大学の定員枠を超える場合には、大学ごとに抽選を行い、履修者を決定します。抽選の結果、履修できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ・また、前後に履修する授業に支障が出ないよう、共同化施設までの交通手段や所属大学からの所要時間を十分考慮した上で、履修登録を行うようにしてください。

◇後期授業科目の履修定員

科目名	担当教員	科目定員(人)	うち工繊大	うち府大	うち医大
哲学	工・伊藤	174	87	58	29
人間学	医・棚次	120	36	24	60
日本史	工・昆野	99	50	33	16
東西文化交流史	工・オーガスティン	99	50	33	16
日本文学Ⅱ	医・工藤	99	29	20	50
文芸創作論	医・藤田	120	36	24	60
西洋文化論	工・山下太	99	50	33	16
ラテン語	医・松本	99	29	20	50
京都の文学Ⅱ	府・藤原	99	37	50	12
京の意匠	工・並木	196	98	66	32
京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	99	37	50	12
政治学	工・竹本	99	50	33	16
国際政治	府・依田	120	46	60	14
経済学入門	工・人見	174	87	58	29
生活と経済	府・小沢	99	37	50	12
人文地理学Ⅱ	医・石川	120	36	24	60
京都学事始 一近代京都と三大学一	機構・宗田ほか	99	33	33	33
文化社会学	工・工藤	99	50	33	16
社会学Ⅱ	府・玉井	174	65	87	22
現代社会と心	府・石田	196	74	98	24
医史学	医・八木	300	90	60	150
リベラルアーツ・ゼミナールⅠ (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ a (社会科学の学び方)	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ b (社会科学の学び方)	機構・児玉	30	10	10	10
人と自然と数学β	工・塚本	99	50	33	16
人と自然と物理学	工・萩原、播磨	99	50	33	16
化学概論Ⅱ	工・石川	99	50	33	16
生物学概論Ⅱ	工・遠藤	99	50	33	16
人類生態学	府・熊倉	174	65	87	22
科学史	工・藤川	174	87	58	29
科学と思想	工・林	99		33	16
地球の科学	工・酒井	196	98	66	32
宇宙と地球の科学	府・松村	99	37	50	12
京都の農林業	府・宮崎ほか	99	37	50	12

◇冬期集中開講科目の履修定員 (開講日程：脇田…12/25 (木) 1~4コース、12/26 (金) 2~5コース
田村…11/22 (土) 3~5コース、11/23 (日) 1~5コース
桑子…12/25 (木) 2~5コース、12/26 (金) 2~5コース)

リベラルアーツ・ゼミナールⅤ (アメリカと中国はいま)	機構・脇田	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅥ (現代イスラーム世界の文化と社会)	機構・田村	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ (感性の実践哲学)	機構・桑子	30	10	10	10

共同化科目開講キャンパスガイド

共同化科目開講場所についての注意

平成26年度前期

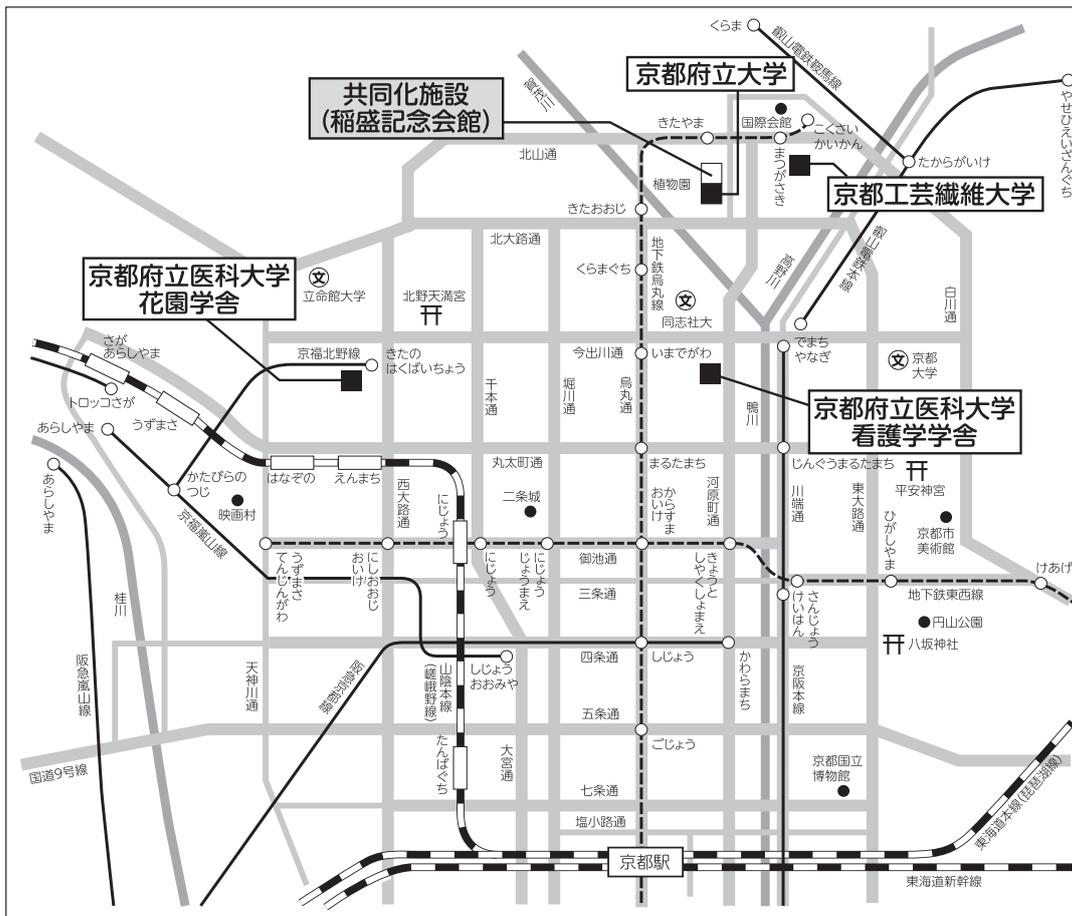
共同化施設（稲盛記念会館）が工事中のため、次の4ヶ所で開講されます。なお、機構提供科目は、府立大学下鴨キャンパス内で開講されますので、注意してください。

- ・京都府立大学 下鴨キャンパス
- ・京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス
- ・京都府立医科大学 花園学舎
- ・京都府立医科大学 看護学学舎

平成26年度後期

原則として、京都府立大学下鴨キャンパス敷地内の共同化施設（稲盛記念会館）で開講されます。

受講者は、次ページ以降に掲載されている地図や交通手段などを参考にして、時間に余裕をもって移動できるように掛けて下さい。



平成26年度 共同化科目開講時間割

前期 ※前期の授業は、提供大学のキャンパス内で開催されます。
 なお、機構提供科目については、府立大学下鴨キャンパス内で開講されますので、注意してください。

提供大学等	機 構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学		
開講場所	京都府立大学 下鴨キャンパス	松ヶ崎キャンパス	下鴨キャンパス	花園学舎	看護学学舎	
月 曜	3 12:50~ 14:20	リベラルアーツ・ ゼミナールⅡa (現代社会に学ぶ問う 力・書く力) (児玉英明)	日本近現代文学 (高木 彬)	宗教学 (棚次正和)		
			現代教育論 (塩屋葉子)			京都の歴史Ⅰ (榎木謙周ほか)
			生物学概論Ⅰ (遠藤泰久)			現代京都論 (宗田好史)
月 曜	4 14:30~ 16:00	リベラルアーツ・ ゼミナールⅡb (現代社会に学ぶ問う 力・書く力) (児玉英明)	環境問題と持続可能な社会 (高月 紘)	現代政治 (依田 博)	音楽 (山上友佳子)	
			公共哲学 (平井亮輔)	京都の文学Ⅰ (藤原英城)		
			人と自然と数学α (大倉弘之)	社会学Ⅰ (玉井眞理子)		日本文学Ⅰ (工藤早弓)
			化学概論Ⅰ (三木定雄)	現代社会とジェンダー (小沢修司ほか)		人文地理学Ⅰ (石川義孝)
月 曜	5 16:10~ 17:40	リベラルアーツ・ ゼミナールⅡb (現代社会に学ぶ問う 力・書く力) (児玉英明)	キャンパスヘルス概論 (荒井宏司)	食と健康の科学 (木戸康博ほか)		
			京の産業技術史 (山田由希代)	京都の自然と森林 (池田武文ほか)		
			美と芸術 (三木順子)	現代日本と経済 (熊澤大輔)		
			比較宗教学 (若見理江)			
			西洋文学論 (山下大吾)	アジアの歴史と文化 (中 純夫)		
			心理学 (大谷芳夫)			
人権教育 (杉本弘幸)						
エネルギー科学 (林 哲介)						

後期

提供大学等	機 構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学		
開講場所	原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内の 共同化施設 (稲盛記念会館)					
月 曜	3 12:50~ 14:20	リベラルアーツ・ ゼミナールⅢa (社会科学の学び方) (児玉英明)	京の意匠 (並木誠士)	医史学 (八木聖弥)		
			東西文化交流史 (オーガスティン・ジョナサン)		京都の歴史Ⅱ (小林啓治ほか)	
			文化社会学 (工藤保則)		国際政治 (依田 博)	
			化学概論Ⅱ (石川洋一)			
			生物学概論Ⅱ (遠藤泰久)			
			科学と思想 (林 哲介)			
月 曜	4 14:30~ 16:00	リベラルアーツ・ ゼミナールⅠ (感覚で探る問題解決の 方法) (藤井陽奈子)	哲 学 (伊藤 徹)	人文地理学Ⅱ (石川義孝)		
			経済学入門 (人見光太郎)		京都の文学Ⅱ (藤原英城)	
			人と自然と数学β (塚本千秋)		社会学Ⅱ (玉井眞理子)	日本文学Ⅱ (工藤早弓)
			人と自然と物理学 (萩原 亮、播磨 弘)		現代社会と心 (石田正浩)	ラテン語 (松本加奈子)
月 曜	5 16:10~ 17:40	リベラルアーツ・ ゼミナールⅢb (社会科学の学び方) (児玉英明)	宇宙と地球の科学 (松村一男)	文芸創作論 (藤田佳信)		
			西洋文化論 (山下太郎)	京都の農林業 (宮崎 猛ほか)		
			日本史 (昆野伸幸)	人間学 (棚次正和)		
			政治学 (竹本知行)		生活と経済 (小沢修司)	
			科学史 (藤川直也)		人類生態学 (熊倉博雄)	
地球の科学 (酒井 敏)						
京都学事始—近代京都と三大学— (宗田好史ほか)						

集中開講

夏 期	リベラルアーツ・ゼミナールⅣ(現代社会と映画製作) (長坂勉) (8月28~29日、9月4~5日 各3・4コース)
冬 期	リベラルアーツ・ゼミナールⅤ(アメリカと中国はいま) (脇田哲志) (12月25日 1~4コース、26日 2~5コース)
	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ(現代イスラーム世界の文化と社会) (田村うらら) (11月22日 3~5コース、23日 1~5コース)
	リベラルアーツ・ゼミナールⅦ(感性の実践哲学) (桑子敏雄) (12月25~26日 両日とも2~5コース)

京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート

京都三大学教養教育研究・推進機構「授業アンケート（2014後期）」

このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんの意見・感想を今後の科目のあり方や実施方法の改善に活かすために行うもので、成績評価には一切関係しませんので、率直に教えてください。なお、集計結果の活用の際には、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。

科目名

記入上の注意

○マーク例 良いマーク ● 悪いマーク ◐ ◑ ◒
記入に際しては鉛筆かシャープペンシルを用い、間違った場合は消しゴムできれいに消してください。

I あなたの所属は、次のうちのどれですか。

- 京都府立大学 ① 文学部 ② 公共政策学部 ③ 生命環境学部
 京都工芸繊維大学 ④ 生物物質科学域 ⑤ 設計工科学域 ⑥ 造形科学域 ⑦ 先端科学技術課程
 京都府立医科大学 ⑧ 医学科 ⑨ 看護学科
 ⑩ その他 ()

II 京都府立大学生は、所属学科もお答えください。

- 文学部 ① 日本・中国文学科 ② 欧米言語文化学科 ③ 歴史学科
 公共政策学部 ④ 公共政策学科 ⑤ 福祉社会学科
 生命環境学部 ⑥ 生命分子化学科 ⑦ 農学生命科学科 ⑧ 食保健学科
 ⑨ 環境・情報科学科 ⑩ 環境デザイン学科 ⑪ 森林科学科

III 学年をお答えください。

- ① 1年生 ② 2年生 ③ 3年生 ④ 4年生 ⑤ その他

IV この科目の出席状況をお答えください。

- ④ ほぼ全て出席した（12回以上） ③ かなり出席した（9～11回） ② あまり出席しなかった（5～8回）
 ① ほとんど出席しなかった（4回以下）

V この科目について、1回あたり平均してどのくらいの授業時間外学習（予習・復習）をしていますか。

- ④ 120分以上 ③ 60分以上 ② 30分以上 ① 30分未満

VI この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。

次の各項目に5段階で教えてください。

	5 強く 思う	4 やや 思う	3 どちら とも 言えない	2 あまり 思わ ない	1 全く 思わ ない
(1) この科目や関連する分野特有の視点や手法を学んだ	⑤	④	③	②	①
(2) この科目や関連する分野の基礎的知識を修得した	⑤	④	③	②	①
(3) 世界の人々の多様な生き方に触れた	⑤	④	③	②	①
(4) 自らの生き方を考え、高い倫理観を培った	⑤	④	③	②	①
(5) 現代社会が抱える問題への関心が高まった	⑤	④	③	②	①
(6) 文献・資料などを検索し、読解する力が高まった	⑤	④	③	②	①
(7) レポートを書く力が高まった	⑤	④	③	②	①
(8) 論理的に思考する力が高まった	⑤	④	③	②	①
(9) 受講生や教員との議論を経験できた	⑤	④	③	②	①
(10) 自大学では学べない領域を学んだという実感があつた	⑤	④	③	②	①
(11) 教員との双方向のやりとりがあり、授業に参加しているという実感があつた	⑤	④	③	②	①
(12) 課題や小テストなどのため、講義時間外でこの科目に充てる時間が多かった	⑤	④	③	②	①
(13) 成績評価の方法や基準が明らかにされていた	⑤	④	③	②	①
(14) 授業内容に触発されて、関連分野をより深く学びたいと思った	⑤	④	③	②	①

自由記述欄（付け加えたいこと、あるいはこのアンケートに関する意見があれば、お書きください）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

京都三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート

京都三大学教養教育研究・推進機構（2014 年度）

京都三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート

このアンケートは京都三大学教養教育研究・推進機構の取り組みについての意見を集約するために授業アンケートとは別に行うものです。ご協力をお願いします。

1. 三大学教養教育共同化科目（以下、共同化科目）の履修状況について教えてください。（2. (1)～(3)では集中講義を除く）
 - (1) 履修登録の初めに第 1 希望として提出した科目数 [前期：0, 1, 2, 3, 後期：0, 1, 2, 3]
 - (2) 実際に履修登録した科目数 [前期：0, 1, 2, 3, 後期：0, 1, 2, 3]
 - (3) (2) の科目のうち、可否にかかわらず最終評価（試験やレポートなど）を受けた科目数 [前期：0, 1, 2, 3, 後期：0, 1, 2, 3]
2. 履修登録時の抽選についてどう思いますか。 [3. 現状でよい 2. どちらともいえない 1. できればなくしてほしい]
3. 共同化科目の履修登録科目を選ぶとき、次の(1)～(5)はそれぞれの程度役に立ちましたか。次の5段階で教えてください。
 （5：とても役に立った 4：役に立った 3：少し役に立った 2：役に立たなかった 1：利用しなかった）
 - (1) 「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」（紫の冊子） [5, 4, 3, 2, 1]
 - (2) (1) で3～5と答えた人は、さらに(2-1)～(2-4)についても教えてください。
 - (2-1) 科目の概要 [5, 4, 3, 2, 1]
 - (2-2) 学生へのメッセージ [5, 4, 3, 2, 1]
 - (2-3) 授業目的区分 [5, 4, 3, 2, 1]
 - (2-4) 上記以外で役に立った部分があれば書いてください。 []
 - (3) シラバス [5, 4, 3, 2, 1]
 - (4) 京都三大学教養教育研究・推進機構の履修相談 [5, 4, 3, 2, 1]
 - (5) 先輩や友人などの他の学生からのアドバイス [5, 4, 3, 2, 1]
 - (6) その他、役に立ったものがあれば書いてください。 []
4. 履修登録時に第 1 希望の科目を選んだ主な理由を、次の中から3つまで選んでください。
 - [1. 興味があったから 2. 必要だから 3. 学びがいのある科目と思ったから 4. 単位が取りやすそうだったから
 5. 好きな分野だから 6. 知らない分野だから 7. 自大学提供科目だから 8. 他大学提供科目だから
 9. その他 []]
5. 今年度履修した共同化科目の満足度を、科目ごとに5段階で表すとき、満足度の最高値と最低値を教えてください。
 - (1) 満足度の最高値 [5, 4, 3, 2, 1]
 - (2) 満足度の最低値 [5, 4, 3, 2, 1]
6. 共同化科目の数や構成・内容についてはどう思いますか。
 - [4. 現状でよい 3. 科目の構成や内容を再検討してほしい 2. 科目数自体を増やして選択の幅を広げてほしい
 1. その他 []]
7. 来年度、共同化科目を履修しようと思いますか。
 - [5. ぜひ履修したい 4. 履修したい 3. 履修するかもしれない 2. わからない 1. 履修しない]
8. 共同化科目の履修を通じて、他大学の学生と話す等の交流の機会がどの程度あったかを学期ごとに教えてください。（のべ数で、履修日かどうかも問いません）
 - (1) 前期 [4. 7回程度以上 3. 3～6回程度 2. 1～2回程度 1. なかった]
 - (2) 後期 [4. 7回程度以上 3. 3～6回程度 2. 1～2回程度 1. なかった]

(裏面に続く)

京都三大学教養教育研究・推進機構（2014年度）

9. 教養教育共同化施設「稲盛記念会館」についてお聞きします。

(1) 建物や設備に対する満足度を5段階で教えてください。

[5. とても満足 4. やや満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. とても不満]

(2) 共同化科目受講日に自習室を利用しますか。

[5. ほぼ毎週 4. 2週に1回程度 3. これまで数回程度 2. 利用したことはない 1. 自習室を知らなかった]

10. 共同化科目履修のために京都工芸繊維大学から「稲盛記念会館」へ移動している場合にのみ教えてください。それ以外の場合は、次の設問に進んでください。

(1) 通常の交通手段は何ですか。 [1. 自転車 2. 徒歩 3. バスまたは地下鉄 4. その他]

(2) 通常、共同化科目の履修後、京都工芸繊維大学へ向かいますか。 [1. はい 2. いいえ]

(3) 2つのキャンパスで受講することについて、感想や改善点を自由に書いてください。

11. 自由記述欄（その他、意見や要望があれば書いてください）

以上です。ご協力ありがとうございました。



編集・発行



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences

所在地：〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1番5
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」内

T E L : 075-703-4925

F A X : 075-703-4979

H P : <http://kyoto3univ.jp/>

発行日：平成27年3月

デザイン：株式会社 谷印刷所